

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-284663
(P2002-284663A)

(43) 公開日 平成14年10月3日 (2002. 10. 3)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
A 6 1 K	7/48	A 6 1 K	7/48 4 C 0 8 3
	7/00		7/00 K 4 C 0 8 7
	35/74		35/74 C
A 6 1 P	17/16	A 6 1 P	17/16

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 27 頁)

(21) 出願番号 特願2001-89406(P2001-89406)

(22) 出願日 平成13年3月27日 (2001. 3. 27)

(71) 出願人 000119472

一丸ファルコス株式会社
岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1

(72) 発明者 田中 清隆

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1 一
丸ファルコス株式会社内

(72) 発明者 清水 絹恵

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1 一
丸ファルコス株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 化粧料組成物

(57) 【要約】

【課題】皮膚に対しては健全化と美白効果に優れた新規で安全な化粧料組成物を提供する。

【解決手段】ヤシ科ココヤシ属植物の抽出物を乳酸菌類にて発酵させることにより得られる発酵代謝物を含有する化粧料組成物とする。

【効果】優れたチロシナーゼ活性抑制作用を有し、シミ、ソバカスを改善し、肌の色を白く改善すること。又、保湿効果を持ち、肌にツヤ・張りも与えることができる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】ヤシ科ココヤシ属植物の抽出物を乳酸菌類にて発酵させることにより得られる発酵代謝物を含有することを特徴とする化粧料組成物。

【請求項2】乳酸菌類が、乳酸桿菌科乳酸桿菌属、放線菌科ビフィダス菌属、有孢子桿菌科有孢子乳酸桿菌属、レンサ球菌科ペディオコッカス属、レンサ球菌属、ロイコノストック属から選ばれる乳酸菌類から選ばれる1種又は2種以上であることを特徴とする請求項1記載の化粧料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、皮膚に対して健全化と美白効果に優れる化粧料組成物を提供するものである。

【0002】

【従来の技術】人の皮膚の色は、表皮中のメラニン量、毛細血管の血流量、食物由来の色素（カロチン）、角質層の厚さなどが影響しているが、中でもメラニン色素は最も重要な因子と報告されている。いわゆる肝斑（シミ）、雀斑（ソバカス）、日光による色素沈着は、皮膚内に存在する色素細胞の活性化によりメラニン色素の生成が著しく亢進したものであり、中高年齢層や女性にとっては大きな悩みの一つとなっている。

【0003】このメラニン色素は表皮基底層及び毛根部、外毛根鞘に存在する色素細胞（メラノサイト）内の小器官であるメラノソームで生成される。メラニン色素の生成過程は、色素細胞（メラノサイト）内でチロシンにチロシナーゼが活性作用して、チロシンが酸化され、ドーパ、ドーパキノンに変換、更に自動酸化しドーパクロム、5,6-ジヒドロキシインドールを経て重合し、最終的にメラニン色素になる。かくして生成されたメラニンは、色素細胞（メラノサイト）の樹枝状突起から基底細胞に分泌され、基底細胞が分裂し、有棘細胞となると共に上昇し角質層に達する。さらにこのメラニンに紫外線が照射されると、既存のメラニンが酸化され、一時的に黒くなることも報告されている。

【0004】肌の肝斑（シミ）、雀斑（ソバカス）や色素沈着による色黒を防止又は改善する方法として多くの報告がなされているが、中でもメラニンの生成過程を阻害すること、酸化によるメラニンの黒化を防止すること、或いは既に生成されたメラニンを淡色化させることが効果的であるとされ、これに基づき従来から種々の美白成分の提案がされてきた。例えば、アルブチン、コウジ酸又はその誘導体、アスコルビン酸又はその誘導体、トコフェロール又はその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、ハイドロキノンモノベンジルエーテル、プラセンターエキス、シルク抽出物や植物エキス（アルニカ、アルテア、アロエ、オウゴン、エンメイソウ、カミツレ、甘草、クチナシ、ゲンノショウコ、シコ

ン、ショウマ、シラカバ、センキュウ、ゲンノショウコ、サイコ、山茶花、当帰、トウキンセンカ、ニワトコ、紅花、ニンニク、ハトムギ、レイシ、ログウッド）などが知られている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記した美白成分については、処方系中での安定性や溶解性が悪く、澱や分解による異臭、着色が生じ、又、生体レベルにおける効果も充分ではなく、更に皮膚にかぶれを起こすなど安全性の面でも問題があり、満足すべきものではなかった。

【0006】

【課題を解決するための手段】こうした事情に鑑み、本発明者らは、ヤシ科ココヤシ属植物の抽出物を乳酸菌類にて発酵させることにより得られる発酵代謝物が、チロシナーゼ活性を有意に抑え、美白効果を有することを確認した。そして、肌のシミ、ソバカスを改善、肌の色を白く改善すること。又、肌にツヤ・張りも与えることができ、保湿効果を併せ持つ、安全性の高い化粧料組成物を提供することをもって、本発明を完成するに至った。

【0007】更には、乳酸菌類が、乳酸桿菌科乳酸桿菌属、放線菌科ビフィダス菌属、有孢子桿菌科有孢子乳酸桿菌属、レンサ球菌科ペディオコッカス属、レンサ球菌属、ロイコノストック属から選ばれるヤシ科ココヤシ属植物の乳酸菌発酵代謝物を含有する化粧料組成物を提供する。

【0008】

【発明の実施の形態】本発明で使用する「ヤシ科ココヤシ属植物」とは、ココヤシ属（*Cocos* L.）の植物：*C. australis*、*C. capitata*（ブラジルヤシ）、*C. chilensis*、*C. lapidea*（ブラジルゾウゲヤシ）、*C. maldivica*（オオミヤシ）、*C. nucifera* L.（ココヤシ）、*C. plumosa*、*C. romanzoffianum*（ジョウオウヤシ）、*C. sclerocarpa*、*C. yatai*等、またこれら任意の交配種のものを使用することができる。好適には、ココヤシ等一般的にココナツと呼ばれているものを用いることができる。

【0009】抽出部位は、果実、種子、根皮、樹液、葉、花、芽等が挙げられるが、好ましくは果実、特に胚乳の脂肪層の部分を用いる。果実は、どの成熟課程のものでもよいが、好ましくは半成熟以降の課程にあるものを用いる。

【0010】尚、本発明における「抽出物」とは、各種部位をそのまま又は粉碎後搾取したもの。又は、更に溶媒で抽出したものである。果実中の胚乳液や樹液等の液体の形態をもつものはそのまま用いることもできる。更に、一般的にココナツミルクとして市販されているものを同様に用いることもできる。

【0011】抽出溶媒としては、水、アルコール類（例えば、メタノール、無水エタノール、エタノールなどの低級アルコール、又はプロピレングリコール、1,3-ブチ

レングリコールなどの多価アルコール)、アセトンなどのケトン類、ジエチルエーテル、ジオキサン、アセトニトリル、酢酸エチルエステルなどのエステル類、キシレン、ベンゼン、クロロホルムなどの有機溶媒を、単独又は2種類以上の混液を任意に組み合わせて使用することができ、又、各々の溶媒抽出物が組み合わされた状態でも使用できる。

【0012】尚、製造方法は特に制限されるものはないが、通常、常温、常圧下での溶媒の沸点の範囲であれば良く、抽出後は汙過又はイオン交換樹脂を用い、吸着・脱色・精製して溶液状、ペースト状、ゲル状、粉末状とすれば良い。更に多くの場合は、そのままの状態で行うことができるが、必要ならば、その効果に影響のない範囲で更に脱臭、脱色等の精製処理を加えても良く、脱臭・脱色等の精製処理手段としては、活性炭カラム等を用いれば良く、抽出物質により一般的に適用される通常の手段を任意に選択して行えば良い。また、工程に予め溶媒による吸湿(吸水)工程や濃縮または希釈、乾燥工程を加えても、滅菌工程を加えても良い。

【0013】尚、本発明における「乳酸菌類」とは、乳酸桿菌科乳酸桿菌属、放線菌科ビフィダス菌属、有孢子桿菌科有孢子乳酸桿菌属、レンサ球菌科ペディオコッカス属、レンサ球菌属、ロイコノストック属等のことである。

【0014】「乳酸桿菌科乳酸桿菌属菌類」とは、乳酸桿菌科(Lactobacillaceae)、乳酸桿菌属(Lactobacillus)の菌類:Lactobacillus acidophilus、Lactobacillus brevis、Lactobacillus bulgaricus、Lactobacillus casei、Lactobacillus delbrückii、Lactobacillus fermenti、Lactobacillus helveticus、Lactobacillus jugurti、Lactobacillus lactis、Lactobacillus plantarumなどを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0015】「放線菌科ビフィダス菌属菌類」とは、放線菌科(Actinomycetaceae)、ビフィダス菌属(Bifidobacterium)の菌類:Bifidobacterium adolescentis、Bifidobacterium bifidum、Bifidobacterium breve、Bifidobacterium infantis、Bifidobacterium lactentis、Bifidobacterium liberorum、Bifidobacterium longum、Bifidobacterium parvulorum、Bifidobacterium pseudolongum、Bifidobacterium thermophilumなどを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0016】「有孢子桿菌科有孢子乳酸桿菌属菌類」とは、有孢子桿菌科、有孢子乳酸桿菌属(Sporolactobacillus)の菌類:Sporolactobacillus inulinusなどを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用する

ことができる。

【0017】「レンサ球菌科ペディオコッカス属菌類」とは、レンサ球菌科(Streptococcaceae)、ペディオコッカス属(Pediococcus)の菌類:Pediococcus acidilactis、Pediococcus cerevisiae、Pediococcus halophilus、Pediococcus pentosaceusなどを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0018】「レンサ球菌科レンサ球菌属菌類」とは、レンサ球菌科(Streptococcaceae)、レンサ球菌属(Streptococcus)の菌類:Streptococcus cremoris、Streptococcus diacetylactis、Streptococcus faecalis、Streptococcus faecium、Streptococcus lactis、Streptococcus lactis sub-sp. diacetylactis、Streptococcus thermophilus、Streptococcus uberisなどを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0019】「レンサ球菌科ロイコノストック属菌類」とは、レンサ球菌科(Streptococcaceae)、ロイコノストック属(Leuconostoc)の菌類:Leuconostoc citrovorum、Leuconostoc cremoris、Leuconostoc dextranicum、Leuconostoc mesenteroidesなどを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0020】乳酸菌類接種による醗酵は特に制限されるものはないが、各乳酸菌類の至適条件、至適温度、至適pH、至適時間にて行う。このとき、糖をはじめとする各種の栄養素やpH調整のための酸、アルカリ等を適宜加えても良い。醗酵は、混合醗酵でも、連続醗酵でも良い。醗酵後は汙過し、必要であれば、滅菌処理、pH調整、イオン交換樹脂、活性炭カラム、透析膜などを利用し、脱臭、脱色等の精製処理を行う。また、エタノール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール等の有機溶媒、又はこれらの任意の混液を添加することもできる。このようにして得た抽出液はそのままでも利用可能であるが、濃縮、乾燥してペースト状、粉末状としてから利用してもよい。

【0021】又、本発明のヤシ科ココヤシ属植物の抽出物を乳酸菌類により醗酵させることにより得られる発酵代謝物は応用する化粧料組成物の剤型・形態により乾燥、濃縮又は希釈などを任意に行い調整すれば良い。

【0022】本発明のヤシ科ココヤシ属植物の抽出物を醗酵させることにより得られる発酵代謝物は、その含有量としては特に規定するものではないが、種類、品質、期待される作用の程度によって若干異なるが、通常、製剤全量中、固形分換算して、0.0001重量%以上(以下、%で表わす)、好ましくは0.1~50.0%が良い。尚、含有量が0.0001%より少ないと効果が充分期待できない。又、浴用剤の場合では、200~300Lの浴湯に投じて同程

度の濃度になるように処方考慮すれば良い。

【0023】本発明による「化粧料組成物」とは、1)局所又は全身用の皮膚洗浄料又は皮膚化粧料類、2)頭皮・頭髮に適用する薬用及び／又は化粧用の製剤類、3)浴湯に投じて使用する浴用剤、4)人体用の消臭・防臭剤、5)皮膚貼付用シート、化粧用シート、化粧用コットン、衛生用品、衛生綿類、ウェットティッシュなどを意味し、アンプル、カプセル、粉末（パウダー）、顆粒、固形、溶液、ゲル、気泡、エマルジョン、シート、ミスト、スプレー剤など利用上の適当な形態とすることができる。

【0024】具体的には、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ジェル、ローション、オイル、パック、ミスト、顔面用化粧用シートなどの基礎化粧料、ひげ剃り用剤、洗顔料、皮膚洗浄料、シャンプー、リンス、ヘアトリートメント、整髪料、パーマ剤、ヘアトリック、染毛料、育毛・養毛料などの頭髪化粧料、ファンデーション、口紅、頬紅、アイシャドウ、アイライナー、マスカラなどのメイクアップ化粧料、香水類、皮膚用消臭剤、制汗剤、入浴剤等が上げられる。

【0025】本発明の化粧料組成物には、必要に応じ、本発明の効果を損なわない範囲内で、下記に例示する成分や添加剤を任意に選択し添加することができる。尚、製剤中への含有量は、特に規定しないが、通常、0.0001～50%が好ましい。

【0026】(1)各種油脂類

アボガド油、アーモンド油、ウイキョウ油、エゴマ油、オリーブ油、オレンジ油、オレンジラファ油、ゴマ油、カカオ脂、カミツレ油、カロット油、キューカンバー油、牛脂脂肪酸、クイナッツ油、サフラワー油、シア脂、液状シア脂、大豆油、ツバキ油、トウモロコシ油、ナタネ油、パーシク油、ヒマシ油、綿実油、落花生油、タートル油、ミンク油、卵黄油、バーム油、バーム核油、モクロウ、ヤシ油、牛脂、豚脂、スクワレン、スクワラン、プリスタン又はこれら油脂類の水素添加物（硬化油等）等。

【0027】(2)ロウ類

ミツロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カンデリラロウ、モンタンロウ、セラックロウ、ライスワックス等。

【0028】(3)鉱物油

流動パラフィン、ワセリン、パラフィン、オゾケライド、セレシン、マイクロクリスタンワックス等。

【0029】(4)脂肪酸類

ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、ドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ウンデシレン酸、トール油、ラノリン脂肪酸等の天然脂肪酸、イソノナン酸、カプロン酸、2-エチルブタン酸、イソペンタン酸、2-メチルペンタン酸、2-エチルヘキサン酸、イソペンタン酸等の合成

脂肪酸。

【0030】(5)アルコール類

エタノール、イソピロパノール、ラウリルアルコール、セタノール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロール、フェノキシエタノール等の天然アルコール、2-ヘキシルデカノール、イソステアリルアルコール、2-オクチルドデカノール等の合成アルコール。

【0031】(6)多価アルコール類

酸化エチレン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ポリエチレングリコール、酸化プロピレン、プロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ペンチルグリコール、グリセリン、ペンタエリトリール、トレイトール、アラビトール、キシリトール、リビトール、ガラクトール、ソルビトール、マンニトール、ラクチトール、マルチトール等。

【0032】(7)エステル類

ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸オレイル、オレイン酸デシル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、フタル酸ジエチル、フタル酸ジブチル、酢酸ラノリン、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコール等。

【0033】(8)金属セッケン類

ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウム、パルミチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛等。

【0034】(9)ガム質、糖類又は水溶性高分子化合物

アラビアガム、ベンゾインガム、ダンマルガム、グアヤク脂、アイルランド苔、カラヤガム、トラガントガム、キャロブガム、クインシード、寒天、カゼイン、乳糖、果糖、ショ糖又はそのエステル、トレハロース又はその誘導体、デキストリン、ゼラチン、ペクチン、デンプン、カラギーナン、カルボキシメチルキチン又はキトサン、エチレンオキシド等のアルキレン(C2～C4)オキシドが付加されたヒドロキシアシル(C2～C4)キチン又はキトサン、低分子キチン又はキトサン、キトサン塩、硫酸化キチン又はキトサン、リン酸化キチン又はキトサン、アルギン酸又はその塩、ヒアルロン酸又はその塩、コンドロイチン硫酸又はその塩、ヘパリン、エチルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシエチルセルロース、カルボキシ

エチルセルロースナトリウム、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、結晶セルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、ポリビニルメタアクリレート、ポリアクリル酸塩、ポリエチレンオキサイドやポリプロピレンオキサイド等のポリアルキレンオキサイド又はその架橋重合体、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレンイミン等。

【0035】(10)界面活性剤

アニオン界面活性剤（アルキルカルボン酸塩、アルキルスルホン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルリン酸エステル塩）、カチオン界面活性剤（アルキルアミン塩、アルキル四級アンモニウム塩）、両性界面活性剤：カルボン酸型両性界面活性剤（アミノ型、ベタイン型）、硫酸エステル型両性界面活性剤、スルホン酸型両性界面活性剤、リン酸エステル型両性界面活性剤、非イオン界面活性剤（エーテル型非イオン界面活性剤、エーテルエステル型非イオン界面活性剤、エステル型非イオン界面活性剤、ブロックポリマー型非イオン界面活性剤、含窒素型非イオン界面活性剤）、その他の界面活性剤（天然界面活性剤、タンパク質加水分解物の誘導体、高分子界面活性剤、チタン・ケイ素を含む界面活性剤、フッ化炭素系界面活性剤）等。

【0036】(11)各種ビタミン類

ビタミンA群：レチノール、レチナール（ビタミンA1）、デヒドロレチナール（ビタミンA2）、カロチン、リコピン（プロビタミンA）、ビタミンB群：チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩（ビタミンB1）、リボフラビン（ビタミンB2）、ピリドキシン（ビタミンB6）、シアノコバラミン（ビタミンB12）、葉酸類、ニコチン酸類、パントテン酸類、ビオチン類、コリン、イノシトール類、ビタミンC群：ビタミンC酸又はその誘導体、ビタミンD群：エルゴカルシフェロール（ビタミンD2）、コレカルシフェロール（ビタミンD3）、ジヒドロタキステロール、ビタミンE群：ビタミンE又はその誘導体、ユビキノノール類、ビタミンK群：フィトナジオン（ビタミンK1）、メナキノール（ビタミンK2）、メナジオン（ビタミンK3）、メナジオール（ビタミンK4）、その他、必須脂肪酸（ビタミンF）、カルニチン、フェルラ酸、γ-オリザノール、オロツト酸、ビタミンP類（ルチン、エリオシトリン、ヘスペリジン）、ビタミンU等。

【0037】(12)各種アミノ酸類

バリン、ロイシン、イソロイシン、トレオニン、メチオニン、フェニルアラニン、トリプトファン、リジン、グリシン、アラニン、アスパラギン、グルタミン、セリン、システイン、シスチン、チロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、グルタミン酸、ヒドロキシリジン、アルギニン、オルニチン、ヒスチジン等や、それらの硫酸塩、リン酸塩、硝酸塩、クエン酸塩、

或いはピロリドンカルボン酸のごときアミノ酸誘導体等。

【0038】(13)植物又は動物系原料由来の種々の添加物

これらは、添加しようとする製品種別、形態に応じて常法的に行われる加工（例えば、粉碎、製粉、洗浄、加水分解、醗酵、精製、圧搾、抽出、分画、ろ過、乾燥、粉末化、造粒、溶解、滅菌、pH調整、脱臭、脱色等を任意に選択、組合わせた処理）を行い、各種の素材から任意に選択して供すれば良い。

【0039】尚、抽出に用いる溶媒については、供する製品の使用目的、種類、或いは後に行う加工処理等を考慮した上で選択すれば良いが、通常では、水、メタノール、エタノール、プロピルアルコール、イソプロピルアルコール、ブタノール、イソブタノール等の低級アルコール或いは含水低級アルコール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン等の多価アルコール或いは含水多価アルコール、アセトン、酢酸エチル等の各種有機溶媒の中から選ばれる1種若しくは2種以上の混液を用いるのが望ましい。但し、用途により有機溶媒の含有が好ましくない場合においては、水のみを使用したり、あるいは抽出後に除去しやすいエタノールを採用し、単独又は水との任意の混液で用いたりすれば良く、又、搾取抽出したものでも良い。

【0040】尚、植物又は動物系原料由来の添加物を、全身用又は局所用の外用剤、化粧品類に供する場合、皮膚や頭髮の保護をはじめ、保湿、感触・風合いの改善、柔軟性の付与、刺激の緩和、芳香によるストレスの緩和、細胞賦活（細胞老化防止）、炎症の抑制、肌質・髪質の改善、肌荒れ防止及びその改善、発毛、育毛、脱毛防止、光沢の付与、清浄効果、疲労の緩和、血流促進、温浴効果等の美容的効果のほか、香付け、消臭、増粘、防腐、緩衝等の効果も期待できる。

【0041】又、飲食品においては、栄養補給、疲労回復、強壮、細胞賦活（細胞老化防止）等の健身並びに美容的効果をはじめ、味覚の改善、色調や芳香、光沢の付与、安定化、増粘、防腐等の目的で使用する事ができる。更にこの他にも、これまでに知られている各原料素材の様々な美容的、薬剂的効果を期待し、これらを組合わせることによって目的とする効果の増進を図ったり、或いは多機能的な効果を期待した製品とすることも可能である。

【0042】原料とする具体的な植物（生薬）としては、例えば、アーモンド（へん桃）、アイ（藍葉）、アオカズラ（清風藤）、アオキ（青木）、アオギリ又はケナシアオギリ（梧桐）、アオツツラフジ（木防已）、アオテンマ、アカシア、アカショウマ（赤升麻）、アカスグリ「果実」、アカツメクサ、アカブドウ、アカミノギ（ログウッド）、アカメガシワ（赤芽柏）、アカミノアカネ又はセイヨウアカネ又はアカネ（茜草根）、アカヤジオウ又はジオウ（地黄）、

アギ(阿魏)、アキカラマツ、アキニレ(榔榆皮)、アグアイー・グアスー、アグアヘ(オオミテングヤシ)、アケビ(木通)、アサ(麻子仁)、マルバアサガオ又はアサガオ(牽牛子)、アジサイ(紫陽花)、アシタバ(明日葉)、アズキ(赤小豆)、アスナロ、アセロラ、アセンヤク(阿仙薬)、アチラ(ショクヨウカンナ)、アニス、アビウ、アビウラーナ、アブラナ、アベマキ「果実」、アボカド、アマ、アマチャ(甘茶)、アマチャヅル、アマドコロ(玉竹)、アマナ(光慈姑)、アマランサス(ヒユ、ハゲイトウ、ヒモゲイトウ、センニンコク、スギモリゲイトウ、ホソアオゲイトウ、アオゲイトウ、ハリビユ、アオスズラン、アマラントウス・ヒボコンドリアクス)、アミガサユリ又はバイモ(貝母)、アリストロメリア(ユリズイセン)、アルカナ(アルカンナ)、アルガローボ(キャベ)、アルテア、アルニカ、アルビニア又はカツマダイ(ソウズク)、アロエ(蘆薈)、アロエベラ、アンジェリカ、アンズ又はホンアンズ(杏仁)、アンソッコウ(安息香)、イエローサボテ、イガコウゾリナ(地胆頭)、イカリソウ又はヤチマタイカリソウ(インヨウカク)、イグサ(灯心草)、イタドリ(虎杖根)、イチイ(一位)、イチゴ、イチジク(無花果「果実、葉」)、イチハツ(一初)、イチビ(冬葵子)、イチヤクソウ(一葉草)、イチョウ(銀杏「種子、葉」)、イトヒメハギ(遠志)、イナゴマメ、イヌナズナ(テイレキシ)、イヌビユ(ホナガイヌビユ)、イネ「種子、種皮」、イノンド「種子」、イブキジャコウソウ、イラクサ、イランイラン、イワタバコ(岩菫)、イワヒバ又はイワマツ(卷柏)、ウーロン茶、ウイキョウ(茴香)、ウィート(チブサノキ)、ウキヤガラ(三稜)、ウグイスカグラ「果実」、ヒメウイキョウ、ウコン(鬱金)、ウキクサ(浮萍)、ウスバサイシン又はケイリンサイシン又はオウシュウサイシン(細辛)、ウスベニアオイ、ウスベニタチアオイ、ウチョウラン、ウツボグサ(夏枯草)、ウド又はシシウド(羌活、独活、唐独活)、ウニャデガト(ウンカリア、キャツクロー)、ウバ茶、ウメ(烏梅「種子、果肉」)、ウラジロガシ、ウワウルシ(クサコケモモ)、ウンシュウミカン(陳皮)、ウンボク、エストラゴン、エゾウコギ(蝦夷五加)、エゾスズラン、エチナシ(ホソバムラサキバレンギク)、エニシダ、エノキタケ(榎茸)、エビスグサ又はカッシア・トーラ(決明子)、エルカンプレ、エルダーベリー「果実」、エレミ、エリンギ又はプレロータスエリンギ、エンジュ(槐花、槐花米)、オウギ又はキバナオウギ(黄耆)、ナルコユリ又はカギクマルバナナルコユリ(黄精)、オウヒササノユキ又はササノユキ、オウレン(黄連)、オオガタホウケン、オオカラスウリ(カニコン)、オオグルマ(土木香)、オオツツラフジ(防己)、オオバコ(車前子、車前草)、オオバナアザミ(祁州漏芦、白頭翁)、オオハシバミ(榛子)、オオハシラサボテン、オオバナオケラ又はオケラ(白朮)、オオバナサルズベリ(バナバ)、オオバヤシャブシ「果実」、オオホシグサ(穀精草)、オオミアカ

テツ、オオミサンザシ又はサンザシ(山査子)、オオムギ(大麦)、オカ、オカゼリ(蛇床子)、オクラ「果実」、オグルマ(旋覆)、オクルリヒゴタイ(禹州漏芦、藍刺頭)、オタネニンジン又はトチバニンジン(人参)、オトギリソウ又はコゴメバオトギリソウ又はセイヨウオトギリソウ(弟切草)、オドリコソウ(續断)、オナモミ(蒼耳子)、オニグルミ、オニドコロ又はトコロ又はナガドコロ(ヒカイ)、オニノヤガラ(天麻)、オニユリ又はササユリ又はハカタユリ(百合)、オノエラン、オノニス、オヒョウ(裂葉榆)、オミナエシ(敗醬)、オユーコ、オランダカラシ(クレソン)、オランダゼリ、オランダビユ、オランダミツバ、オリーブ「果実、種子、葉」、オレガノ、オレンジ「果実、果皮」、カイケイジオウ(熟地黄)、カカオ「果実、果皮、種子」、カキ(柿蒂「葉」)、カギカズラ(釣藤鈎)、カキドオシ又はカントリソウ(蓮銭草)、カキラン、ガクアジサイ、カシア、カジノキ(楮実「果実」)、ガジュツ(莢朮)、カシワ(榲桲、榲桲葉)、カスカリラ、カスカラサグラダ、カスミソウ、カセンソウ、カニクサ(金沙藤)、カニーワ、カーネーション、カノコソウ(吉草根)、カバ、カバノキ又はシダレカンバ(白樺)、ガーベラ、カボチャ、カボックノキ「種子」、カホクサンショウ(蜀椒)、ガマ(蒲黄)、カミツレ又はローマカミツレ、カミヤツデ(通草)、カムカム(カモカモ)、カラー、カラクサケマン、カラスウリ又はシナカラスウリ(王瓜)、カラスビシャク(半夏)、カラスムギ、ガラナ「種子」、カラホオ(厚朴)、カラヤ、ガリュウ、カリン(木瓜)、ガルシニア、カワミドリ、カワラサイコ(委陵菜、翻白草)、カワヂシャ、カワラタケ、カワラナデシコ(石竹)又はエゾカワラナデシコ(瞿麦、瞿麦子)、カワラニンジン(青蒿)、カワラヨモギ(茵陈蒿)、カンスイ(甘遂)、カンゾウ(甘草)、カンタラアサ、カンドリラ、カントウ、カンナ、カンラン、キイチゴ(エゾイチゴ、オランダイチゴ、エビガライチゴ、ナワシロイチゴ、モミジイチゴ、ヨーロッパキイチゴ)、キウイ「果実、葉」、キカラスウリ(瓜呂根)、キキョウ(桔梗、桔梗根)、キク(菊花、シマカンギク、チョウセンノギク)、キクタニギク、キササゲ(梓実)、ギシギシ(羊蹄根)、ギジツ(枳实)、ギズタ、キダチアロエ、キダチハッカ、キナ、キナノキ(シンコーナ、アカキナノキ)、キヌア(キノア)、キハダ(黄柏)、ギムネマ・シルベスタ、キメンカク、キャベツ、キャベツ「未熟果」、キャラウェー、キュウリ、ギョリュウ(西河柳、てい柳)、キラジャ・サボナリア、キラヤ、キランソウ(金瘡小草)、キンカン「果実」、ギンセカイ、キンブセン、キンマ、キンミズヒキ(仙鶴草)、キンラン、ギンラン、キンリョウヘン、グアペーバ・ヴェルメーリヤ、グアバ「果実」、グアユーレ、ケルクス・インフェクトリア(没食子)、ククイナツツ、クゲヌマラン、クコ(枸杞、枸杞子、枸杞葉、地骨皮)、クサスギカズラ(天門冬)、クズ(葛根)、クスノキ、グースベリー「果実」、クソニンジン(黄花蒿)、

クティティリバー、クチナシ(山梔子)、クヌギ(樺ソウ)、クブアス、クベバ、クマザサ、クマツヅラ(馬鞭草)、クララ(苦参)、クランベリー「果実」、クリ「種子、果実、渋皮」、クルクリゴ・ラチフォリア「果実」、グレープフルーツ「果実・葉」、クロウメモドキ、クロガネモチ(救必応)、カメバヒキオコシ又はクロバナヒキオコシ又はヒキオコシ(延命草)、クローブ(丁子、丁香)、グンバイナズナ(セキメイ、セキメイシ)、ケイガイ(荊芥、荊芥穂)、ケイトウ(鶏冠花、鶏冠子)、ゲッカビジン、ゲッケイジュ(月桂樹)、ケナシサルトリイバラ(土茯苓、山帰来)、ゲンチアナ、ゲンノショウコ(老鶴草)、ケンボナシ(キグシ)、コウキセッコク、キシユミカン(コウジ、タチバナ、オオベニミカン、フクレミカン、サガミコウジ、ボンカン、サンタラ(橘皮))、コウシンバラ(月季花)、コウスイハッカ、コウゾ「果実」、コウチャ(紅茶)、コウホネ(川骨)、コウホン(藁本、唐藁本)、コウリヤン、コウリョウキョウ(高良姜)、コエンドロ「果実」、コオウレン(胡黄連)、コガネバナ(黄ゴン)、コケモモ(越橘)、ココヤシ「果実」、ゴシユウ(呉茱萸)、ゴショイチゴ(覆盆子)、コショウ(胡椒)、コスモス、コバイババサム、コーヒー「種子、葉」、コブシ又はモクレン(辛夷)、ゴボウ(牛蒡、牛蒡子)、コボタンヅル、ゴマ(胡麻)、ゴマノハグサ(玄参)、ゴミシ(五味子)、サネカズラ又はビナンカズラ又はマツブサ、コムギ(小麦)、米又は米糠「赤糠、白糠」、コメ油、コーラ・アクミナタ「種子」、コーラ・ベラ「種子」、コロニーリヤ、コロハ「果実」、コロソバ、コンズランゴ、コンブ、コンニャク、コンフリー(罂粟草)、サイザル(サイザルアサ)、サイハイラン、サカネラン(エゾサカネラン)、サキシマボタンヅル又はシナボタンヅル又はシナセンニンソウ(威靈仙)、サクラ(オオシマザクラ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガシ、マメザクラ、ミヤマザクラ、ソメイヨシノ、タカネザクラ、カスミザクラ、コヒガン、サトザクラ、カンザクラ「葉、花、果実、樹皮(桜皮)」)、サ克蘭ボ、ザクロ、ササ、ササバギンラン、サザンカ、サジオモダカ(沢瀉)、サツマイモ、サトウキビ、サトウダイコン、サネブトナツメ(酸漿仁)、サフラン(番紅花、西紅花)、サボジラ、サボテアマリヨ、ザボン「果実」、ザボンソウ、サーモンベリー「果実」、サラシナショウマ(升麻)、サランシトウ(砂藍刺頭)、サルビア(セージ)、サワギキョウ(山梗菜)、サワグルミ(山胡桃)、サンカクサボテン、サングレデグラード(クロトン)、サンシクヨウソウ、サンシチニンジン(三七人參)、サンシユウ(山茱萸)、サンショウ(山椒)、サンズコン(山豆根)、シア(カリテ)、シヤノキ「果実」、シヤタケ(椎茸)、シオン(紫苑)、ジキタリス、シクンシ(使君子)、シソ又はアオジソ又はチリメンジソ又はカタメンジソ(紫蘇葉、紫蘇子)、シタン、シナノキ、シナホオノキ、シナレンギョウ(連翹)、シメジ(ヒンシメジ、シャカシメジ、ハタケ

シメジ、オシロイシメジ、ブナシメジ、ホンジメシ、シロタモギタケ)、シモクレン(辛夷)、シモツケソウ、ジャガイモ、シャクヤク(芍薬)、シャジン(沙参)、ジャスミン(マツリカ)、ジャノヒゲ(麦門冬)、シュクコンカスミソウ、シュクシャミツ(砂仁、縮砂)、ジュズダマ、シュロ「果実」、シュンラン、ショウガ(生姜)、ジョウザンアジサイ(常山)、ショウブ(菖蒲、菖蒲根)、ショズク「果実」、シラカシ「種子」、シラン(ビャクキュウ)、シロゴチョウ「種子」、シロツメクサ(クローバー)、シロトウアズキ(鶏骨草)、シロバナイリス(ニオイイリス)、シロバナツタ「花」、シロミナンテン(南天実)、シンコナサクシルブラ、ジンチョウゲ(瑞香、瑞香花、沈丁花)、シンナモン、シンナモムム・カッシア(桂皮)、スイカ(西瓜)、スイカズラ(金銀花、忍冬)、スイバ(酸模)、スイムベリー「果実」、スターアップル、ステビア、ストロベリー「果実」、スズサイコ(徐長卿)、スギナ(問荊)、スベリヒユ(馬歯けん、馬歯けん子)、スモモ「果実」、スルガラン(オラン)、セイヨウアカマツ「球果」、セイヨウカラマツ、セイヨウキズタ、セイヨウグルミ、セイヨウサンザシ、セイヨウスノキ、セイヨウタンポポ、セイヨウトチノキ(マロニエ)、セイヨウナシ「果実」、セイヨウナツユキソウ、セイヨウニワトコ(エルダー)、セイヨウネズ(ジュニパー、杜松)、セイヨウノコギリソウ(ミルフォイル)、セイヨウバラ、セイヨウフウチョウボク、セイヨウヤドリギ、セイヨウハッカ又はセイヨウヤマハッカ、セイヨウワサビ、セキショウ(石菖根)、セッコク(サクラセッコク、コウキセッコク、オオバナセッコク、オキナワセッコク、ホンセッコク、コチョウセッコク、シカクセッコク、キバナセッコク)(デンドロビウム、石斛)、セドロン(ボウシュウボク)、ゼニアオイ、ヒロハセネガ、セネガ、セリ、セロリ、センキュウ(川キュウ)、センシレン(穿心連)、センダン、センニンサボテン、センナ「果実、葉」、センニンソウ(大蓼)、センブリ(当薬)、センボク、ソウカ(草果)、ゾウゲチュウ、ソシンロウバイ、ソバ「種実」、ソメモノイモ、ダイオウ(大黃)、大根、大豆、ダイダイ(橙皮、枳实)、タカサゴリヒゴタイ(東南藍刺頭)、タカサブロウ(旱蓮草)、タカトウダイ(大戟)、タカワラビ(狗脊)、ダークスイートチェリー「果実」、タチアオイ、タチジャコウソウ(タイム、百里香)、タチドコロ(ヒカイ)、タチヤナギ、タマリンド「種子」、タマネギ、タムシバ(辛夷)、タラノキ「果実、葉、根皮」、タラヨウ(大葉冬青、一葉茶、苦丁茶、苦灯茶)、ダリア(テンジクボタン)、タルウィ、タンシウチワ、タンジン(丹参)、タンポポ(蒲公英)又はシロバナタンポポ又はモウコタンポポ、ダンマル、チェリー「果実」、チガヤ「果実、根、芽」、チクセツニンジン(竹節人參)、チコリ、チャンカピエドラ(キダチコミカンソウ)、チューリップ、チョコノステイ、チョウセンダイオウ(大黃)、チョウセンニレ(蕪夷)、チョウセン

ヨモギ(艾葉)、チョレイマイタケ(猪苓)、チョロギ、ツキミソウ、ツクシサカネラン、ツクリタケ(マッシュルーム)、ツチアケビ、ツバキ、ツボクサ、ツメクサ(漆姑草)、ツユクサ(鴨跖草)、ツルアズキ(赤小豆)、ツルツチアケビ、ツルドクダミ(何首烏)、ツルナ(薔杏)、ツルニンジン(四葉参)、ツワブキ、デイコ、テウチグルミ、デュベリー「果実」、テングサ、テンチャ(甜茶)、テンダイウヤク(烏藥)、トウガ(冬瓜子)、トウカギカズラ、トウガラシ(番椒)、トウキ(当帰)、トウキンセンカ(マリーゴールド)、トウナベナ(川断)、トウモロコシ又はトウモロコシ毛(南蛮毛)、トウネズミモチ(女貞子)、トウリンドウ又はチョウセンリンドウ(竜胆)、トクサ(木賊)、ドクダミ(十薬)、トコン(吐根)、トシシ又はマメダオシ又はネナシカズラ、トチュウ(杜仲「樹皮、葉、根」)、トネリコ(秦皮)、トマト、トラガント、トリアカンソス「種子」、トルコキキョウ、トルメンチラ、ドロノキ、トロロアオイ、トンカマメ、ナイゼリアベリー「果実」、ナガイモ又はヤマノイモ(山藥)、ナギイカダ(ブッチャーブルーム)、ナギナタコウジュ、ナズナ、ナタネ、ナタマメ又はタテハキ(刀豆)、ナツミカン、ナツメ(大棗)、ナニワイバラ(金縷子)、ナベナ(統断)、ナメコ、ナンキンマメ(落花生)、ナンテン(南天実)、ナンパンカラムシ(苧麻)、ニオイスマレ、ニガキ(苦木)、ニガヨモギ(苦艾)、ニクズク、ケイ又はニッケイ又はセイロンニッケイ又はヤブニッケイ(桂皮)又はケイシ(桂枝)、ニョホウチドリ、ニラ(韭子)、ニワトコ(接骨木「果実、花、茎、葉」)、ニンニク(大蒜)、ヌルデ(五倍子)、ネギ、ネムノキ又はネブ又はネビ又はネムリノキ又はジゴクバナ(合歡)、ノアザミ(大薊)、ノイバラ(営実)、ノウゼンカズラ(凌霄花)、ノゲイトウ、ノコギリソウ、ノダケ(前胡)、ノバラ、ノモモ、パイナップル「果実」、ハイビスカス(ブッソウゲ、フウリンブッソウゲ、ローゼル)、ハイリンドウ、ハウチワ、パウ・ドーセ、ハカマウラボシ(骨碎補)、ハクカユマトウ、ハクサンチドリ、ハクセン(白癩皮)、ハクルベリー「果実」、ハコベ(繁縷)、ハシバミ(榛子)、ハシリドコロ(ロート根)、バジル、ハス(蓮、蓮肉、蓮子)、パセリ(オランダゼリ)、ハダカムギ、バタタ、ハチク又はマダケ(竹茹)、パチョリー、ハッカ(薄荷、薄荷葉)、ハトムギ(ヨクイニン)、ハナスゲ(知母)、バナナ、ハナハッカ、ハナビシ(シツリシ、シシツリ)、バニラビーンズ、パイヤ、ハハコグサ(鼠麴草)、パハロボボ、ハブ「全草、茎、葉」、パブリカ、ハマカキラン、ハマゴウ又はミツバハマゴウ(蔓荊子)、ハマスゲ(香附子)、ハマビシ(シツリ子)、ハマナス(マイカイ花)、ハマボウフウ(浜防風)、ハメリス、パーム、バラ(薔薇)、バラータ、バラタゴムノキ、ハラタケ(ハラタケ、シロオオハラタケ、ウススキモリノカサ)、ハラン、パリウルス(セイヨウハマナツメ)、パリエタリア、ハルカンラン、バルサミーナ(ツルレイシ、ニガウリ)、ハルニレ(榆皮、榆白

皮、榆葉)、バルバスコ、ハルリンドウ、ハンダイカイ(胖大海)、パンノキ、ヒオウギ(射干)、ヒカゲツルニンジン(党参)、ピーカンナッツ、ヒガンバナ(石蒜、蔓珠沙華)、ヒグルマダリア、ヒゴタイ、ヒシ(菱実)、ビスタチオ、ビート、ヒトツバ(石葦)、ヒトツバエニシダ、ヒナギク(デージー)、ヒナタイノコズチ(牛膝)、ヒナチヨドリ、ヒノキ、ヒバ、ヒマシ、ヒマワリ、ピーマン、ヒメウズ(天葵)、ヒメガマ(香蒲)、ヒメマツタケ(カワリハラタケ、ヒロマツタケ)、ヒメムヨウラン、ヒメシタ「果実」、ビャクシ、ビャッキュウ、ヒユ「果実」、ビロウドアオイ、ヒロハオキナグサ(白頭翁)、ビワ「果実、葉、茎」、ビンロウ(大服皮、檳榔子)、プーアル茶(普?茶)、フウトウカズラ(南藤)、フキ、フキタンポポ(款冬花、款冬葉)、フジバカマ(蘭草)、フジマメ(扁豆)、フジモドキ(チョウジザクラ、芫花)、ブドウ「果実、果皮、種子、葉」、ブナ、フユムシナツクサタケ(冬虫夏草)、ブラジルカンゾウ、ブラジルニンジン、ブラックカーラント「果実」、ブラックベリー、ブルーニェン、プラム「果実」、フルセラリア、ブルーベリー(セイヨウヒメスノキ)、プルーン、フローラルブランカ、ブロードサイリウム、ブンドウ(緑豆)、ヘーゼルナッツ、ヘチマ、ヘツカラン、ベニバナ(紅花)、ヘネケン、ベラドンナ、ベリー「果実」、ペルセア、ペルビアンバーグ、ペレスキア・グランディフォリア、ベンケイソウ又はイキクサ(景天)、ボイセンベリー「果実」、ホウキギ又はニワクサ又はネンドウ又はハハキギ・コキア(地膚子)、ハウサイラン、ハウセンカ(鳳仙、急性子、透骨草)、ボウテリア・サボタ、ボウテリア・ルクマ、ホウノキ、ボウフウ(防風)、ホウレンソウ、ホオズキ(登呂根)、ホオノキ(和厚朴、朴)、ボケ(木瓜)、ホソバアブラギク(苦ヨク)、ホソバオグルマ、ホソバナオケラ(蒼朮)、ホソバナキリンソウ(景天三七)、ホソババレンギク、ボダイジュ(菩提樹)、ボタン(牡丹「花、葉、茎、樹皮」)、ボタンビ(牡丹皮)、ホップ、ホホバ、ポリジ(ルリチシャ)、ボルドー、ホワートルベリー「果実」、ホンオニク(肉じゅ蓉、大芸)、ホンセッコク(鉄皮石斛、霍山石斛)、マイズルテンナンショウ(天南星)、マイタケ(舞茸)、マオウ(麻黄)、マカ、マカデミアナッツ、マーガレット(モクシュンギク)、マクリ(海人草)、マグワ(桑白皮「樹皮、葉」)、マグノリア・スプレングリ、マサランズーバ、マサランズーバ・ド・セアラ、マシェイラ・デ・ボイ、マシュア(タマノウゼンハレン、キュウコンキンレンカ)、マタタビ(木天蓼)、マツカサ、松「葉、樹皮、根」、マツ・オーリョ、マツホド(茯苓)、マティコ(コルドンシージョ)、マヨラム(ハナハッカ)、マルバノジャジン(苦参)、マルベリー「果実」、マルメロ、マレイン(ビロウドモウズイカ)、マンゴー、マンゴスチン、マンサーニャ(アンデスカミツレ)、マンシュウグルミ、マンダリン「果実」、マンネンタケ(靈芝)、キジツ(枳実「果実」)、ミシマサ

イコ(柴胡)、ミズオオバコ又はミズアサガオ(竜舌草)、ミゾカクシ(半边蓮)、ミソハギ(千屈菜)、ミチヤナギ又はニワヤナギ(篇蓄)、ミツガシワ、ミツバ、ミドリサボテ、ミドリハッカ、ミモザ、ミョウガ、ミラクフルーツ「果実」、ミルラ、ミロバラン、ムギワラギク、ムクゲ(木槿)、ムクノキ、ムクロジ(延命皮)、ムニヤ、ムラサキ(紫根)、ムラサキシキブ又はオオムラサキシキブ(紫珠)、ムラサキトウモロコシ、ムラサキナツフジ(昆明鶏血藤)、メガカンサ・オブンティカ、メハジキ(益母草)、メボウギ、メラロイカ、メリッサ、メリロート、メロン「果実」、モウコヨモギ、モウソウチク、モクキリン、モジエ(コショウボク)、モチノキ、モッコウ(木香)、モミジバダイオウ、モモ(桃「葉、種子、花、果実」)、モヤシ、モレロチェリー「果実」、モロヘイヤ(黄麻)、ヤカワムラサキイモ、ヤクチ(益智)、ヤグルマソウ(ヤグルマギク)、ヤグルマハッカ、ヤーコン、ヤシヤブシ(矢車)又はヒメヤシヤブシ又はオオバヤシヤブシ「果実、果皮、果穂」、ヤチヤナギ、ヤツデ(八角金盤)、ヤドリギ(柳寄生)、ヤナギ(カワヤナギ、タチヤナギ、シダレヤナギ、アカメヤナギ、ネコヤナギ、イヌコリヤナギ、キヌヤナギ、コリヤナギ、ウンリュウヤナギ、ミヤマヤナギ、ヤシ、ヤマヤナギ、オオバヤナギ、タイリクキヌヤナギ、キツネヤナギ、ドロノキ)、ヤナギタデ「葉、茎」、ヤブガラシ、ヤブコウジ(紫金牛)、ヤブタバコ(鶴虱、天名精)、ヤマゴボウ(商陸)、ヤマハノキ(山榛)、ヤマモモ(楊梅皮)、ヤマヨモギ、ユーカリ、ユキノシタ(虎耳草)、ユッカ又はフレビフォリア、ユズ「果実」、ユリ、ヨロイグサ、ヨモギ(艾葉)、ライガン(雷丸)、ライム「果実」、ライムギ、ラカンカ「果実」、ラズベリー「葉、果実」、ラタニア(クラメリア)、ラッキョウ又はエシャロット(薤白)、ラベンダー、リュウガン(竜眼肉)、リュウゼツラン(アオノリュウゼツラン、フクリンリュウゼツラン)、リョクチャ(緑茶)、リンゴ「果実、種子、葉、根」、リンドウ、ルバス又はスアビスムス(甜涼)、ルリタマアザミ(ウラジロヒゴタイ、新疆藍刺頭)、レイシ(荔枝、荔枝核)、レタス(チシャ)、レッドカーラント「果実」、レッドピタヤ、レモン「果実」、レモングラス、レンギョウ又はシナレンギョウ(連翹)、レンゲソウ、ロウバイ(蠟梅)、ロウヤシ、ロコン(ヨシ、蘆根)、ローガンベリー「果実」、ローズマリー(マンネンロウ)、ローズヒップ(ノバラ)、ワサビ、ワタフジウツギ(密蒙花)、ワレモコウ(地榆)等が挙げられる。

【0043】海藻類としては、海藻〔緑藻類：クロレラ・ブルガリス、クロレラ・ビレノイドサ、クロレラ・エリプソイデア、アオノリ(ウスバアオノリ、スジアオノリ、ヒラアオノリ、ボウアオノリ、ホソエダアオノリ)、アナアオサ(アオサ)〕、海藻〔褐藻類：コンブ(マコンブ、リシリコンブ、ホソメコンブ、ミツイシコンブ)、ワカメ、ヒロメ、アオワカメ、ジャイアントケ

ルブ(マクロシステリス・ピリフェラ、マクロシステリス・インテグリフォリア、ネオシステリス・ルエトケアーナ)、ヒジキ、ヒバマタ、ウミウチワ、ウスバウミウチワ、キレバノウミウチワ、アカバウミウチワ、コナウミウチワ、オキナウチワ、ウスユキウチワ、エツキウミウチワ〕、海藻〔紅藻類：ヒジリメン、マクサ(テングサ)、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、カタオバクサ、ヤタベグサ、ユイキリ、シマテングサ、トサカノリ、トゲキリンサイ、アマクサキリンサイ、キリンサイ、ビヤクシンキリンサイ、ツノマタ、オオバツノマタ、トチャカ(ヤハズツノマタ)、エゾツノマタ、トゲツノマタ、ヒラコトジ、コトジツノマタ、イボツノマタ、マルバツノマタ、ヒラコトジ、スギノリ、シギンノリ、カイノリ、ヤレウスバノリ、カギウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、アカモミジノリ〕等が代表的なものとして挙げられる。

【0044】又、その他の藻類、例えば、緑藻類(クラミドモナス属：クラミドモナス、アカユキモ、ドゥナリエラ属：ドゥナリエラ、クロロコッカス属：クロロコッカス、クワノミモ属：クワノミモ、ボルボックス属：オオヒゲマワリ、ボルボックス、パルメラ属、ヨツメモ属、アオミドロ属：ヒザオリ、アオミドロ、ツルギミドロ属、ヒビミドロ属：ヒビミドロ、アオサ属：アナアオサ、アミアオサ、ナガアオサ、カワノリ属：カワノリ、フリッチエラ属、シオグサ属：オオシオグサ、アサミドリシオグサ、カワシオグサ、マリモ、バロニア属：タマゴバロニア、タマバロニア、マガタマモ属：マガタマモ、イワヅタ属：フサイワヅタ、スリコギヅタ、ヘライワヅタ、クロギヅタ、ハネモ属、ミル属：ミル、クロミル、サキブチミル、ナガミル、ヒラミル、カサノリ属：カサノリ、ジュズモ属：フトジュズモ、タマジュズモ、ミゾジュズモ、ミカヅキモ属、コレカエテ属、ツヅミモ属、キッコウグサ属：キッコウグサ、ヒトエグサ属：ヒトエグサ、ヒロハノヒトエグサ、ウスヒトエグサ、モツキヒトエ、サヤミドロ属、クンショウモ属、スミレモ属：スミレモ、ホシミドロ属、フシナシミドロ属等)。

【0045】藍藻類(スイゼンジノリ属：スイゼンジノリ、アオコ属、ネンジュモ属：カワタケ、イシクラゲ、ハッサイ、ユレモ属、ラセンモ(スピルリナ)属：スピルリナ、トリコデスミウム(アイアカシオ)属等)。

【0046】褐藻類(ピラエラ属：ピラエラ、シオミドロ属：ナガミシオミドロ、イソブドウ属：イソブドウ、イソガワラ属：イソガワラ、クロガシラ属：グンセンクロガシラ、カシラザキ属：カシラザキ、ムチモ属：ムチモ、ヒラムチモ、ケベリグサ、アミジグサ属：アミジグサ、サキビロアミジ、サナダグサ属：サナダグサ、フクリンアミジ、コモングサ属：コモングサ、ヤハズグサ属：エゾヤハズ、ヤハズグサ、ウラボシヤハズ、ジガミグサ属：ジガミグサ、ウミウチワ属：ウミウチワ、コナウミウチワ、アカバウミウチワ、ナミマクラ属：ヒルナ

ミマクラ、ソメワケグサ属：ソメワケグサ、ナバリモ属：ナバリモ、チャソウメン属：モツキチャソウメン、マツモ属：マツモ、ナガマツモ属：ナガマツモ、オキナワモズク属：オキナワモズク、ニセフトモズク属：ニセフトモズク、フトモズク属：フトモズク、イシモズク属：イシモズク、クロモ属：クロモ、ニセモズク属：ニセモズク、モズク属：モズク、イシゲ属：イシゲ、イロロ、イチメガサ属：イチメガサ、ケヤリ属：ケヤリ、ウミボッス属：ウミボッス、ウルシグサ属：ウルシグサ、ケウルシグサ、タバコグサ、コンブモドキ属：コンブモドキ、ハバモドキ属：ハバモドキ、ハバノリ属：ハバノリ、セイヨウハバノリ属：セイヨウハバノリ、コモンブクロ属：コモンブクロ、エゾブクロ属：エゾブクロ、フクロノリ属：フクロノリ、ワタモ、チシマフクロノリ属：チシマフクロノリ、カゴメノリ属：カゴメノリ、ムラリドリ属：ムラチドリ、サメズグサ属：サメズグサ、イワヒゲ属：イワヒゲ、ヨコジマノリ属：ヨコジマノリ、カヤモノリ属：カヤモノリ、ウイキョウモ属：ウイキョウモ、ツルモ属：ツルモ、アナメ属：アナメ、スジメ属：スジメ、ミスジコンブ属：ミスジコンブ、アツバミスジコンブ、コンブ属：ガツガラコンブ、カキジマコンブ、オニコンブ、ゴヘイコンブ、ナガコンブ、エンドウコンブ、オオチヂミコンブ、トロロコンブ属：トロロコンブ、アントクメ属：アントクメ、カジメ属：カジメ、ツルアラメ、クロメ、キクイシコンブ属：キクイシコンブ、ネジレコンブ属：ネジレコンブ、クロシオメ属：クロシオメ、ネコアシコンブ属：ネコアシコンブ、アラメ属：アラメ、アイヌワカメ属：アイヌワカメ、チガイソ、オニワカメエゾイシゲ属：エゾイシゲ、ヤバネモク属：ヤバネモク、ラッパモク属：ラッパモク、ジョロモク属：ウガノモク、ジョロモク、ヒエモク、ホンダワラ属：タマナシモク、イソモク、ナガシマモク、アカモク、シダモク、ホンダワラ、ネジモク、ナラサモ、マメタワラ、タツクリ、ヤツマタモク、ウミトラノオ、オオバモク、フシズシモク、ハハキモク、トゲモク、ヨレモク、ノコギリモク、オオバノコギリモク、スギモク属：スギモク、ウキモ属：オオウキモ、ブルウキモ属：ブルウキモ、カヤモノリ属：カヤモノリ等）。

【0047】紅藻類（ウシケノリ属：ウシケノリ、フノリノウシケ、アマノリ属：アサクサノリ、スサビノリ、ウップルイノリ、オニアマノリ、タサ、フイリタサ、ベニタサ、ロドコルトン属：ミルノベニ、アケボノモズク属：アケボノモズク、コナハダ属：ハイコナハダ、ヨゴレコナハダ、アオコナハダ、ウミゾウメン属：ウミゾウメン、ツクモノリ、カモガシラノリ、ベニモズク属：ベニモズク、ホソベニモズク、カサマツ属：カサマツ、フサノリ属：フサノリ、ニセフサノリ属：ニセフサノリ、ソデガラミ属：ソデガラミ、ガラガラ属：ガラガラ、ヒラガラガラ、ヒロハタマイタダキ属：ヒロハタマイタダキ、タマイタダキ属：タマイタダキ、カギケノリ属：カ

ギノリ、カギケノリ、テングサ属：ヒメテングサ、ハイテングサ、オオブサ、ナンブグサ、コヒラ、ヨヒラ、キヌクサ、ヒビロウド属：ヒビロウド、ヒメヒビロウド、イソムメモドキ属：イソムメモドキ、ミチガエソウ属：ミチガエソウ、リュウモンソウ属：リュウモンソウ、ヘラリュウモン、ニセカレキグサ属：ニセカレキグサ、オキツバラ属：オオブオキツバラ、アカバ属：アカバ、マルバアカバ、ナミノハナ属：ホソバナミノハナ、ナミノハナ、サンゴモドキ属：ガラガラモドキ、シオグサゴロモ属：シオグサゴロモ、イワノカワ属：エツキイワノカワ、カイノカワ属：カイノカワ、カニノテ属：カニノテ、サンゴモ属：サンゴモ、ムカデノリ属：ムカデノリ、スジムカデ、カタノリ、ヒラムカデ、キョウノヒモ、サクラノリ、ニクムカデ、タンバノリ、ツルツル、フダラク、マルバフダラク、イソノハナ属：ヌラクサ、クロヌラクサ、オオムカデノリ、ヒラキントキ属：ヒラキントキ、マタボウ属：マタボウ、キントキ属：チャボキントキ、キントキ、マツノリ、コメノリ、トサカマツ、ヒトツマツ、フシキントキ、ツノムカデ、ナガキントキ、スジムカデ、カクレイト属：オオブキントキ、イトフノリ属：イトフノリ、ナガオバナ属：ナガオバナ、フノリ属：ハナフノリ、フクロフノリ、マフノリ、カレキグサ属：カレキグサ、トサカモドキ属：ホソバノトサカモドキ、ヒロハノトサカモドキ、ヤツデガタトサカモドキ、クロトサカモドキ、ネザシノトサカモドキ、ユウソラ、エツキノトサカモドキ、ナンカイトサカモドキ、ヒメトサカモドキ、キヌハダ属：キヌハダ、エゾトサカ属：エゾトサカ、ツカサノリ属：エナシカリメニア、オオツカサノリ、ハナガタカリメニア、ホウノオ属：ホウノオ、ヒカゲノイト属：ヒカゲノイト、ウスギヌ、ニクホウノオ属：ニクホウノオ、ベニスナゴ属：ベニスナゴ、ススカケベニ属：ススカケベニ、オカムラグサ属：ヤマダグサ、ミリン属：ミリン、ホソバミリン、トサカノリ属：キクトサカ、エゾナメシ属：エゾナメシ、イソモッカ属：イソモッカ、ユカリ属：ユカリ、ホソユカリ、イバラノリ属：イバラノリ、サイダイバラ、タチイバラ、カギイバラノリ、キジノオ属：キジノオ、イソダンツウ属：イソダンツウ、アツバノリ属：アツバノリ、オゴノリ属：オゴノリ、ツルシラモ、シラモ、オオオゴノリ、ミゾオコノリ、カバノリ、ベニオゴノリ、フクレシノリ、ムラサキカバノリ、シンカイカバノリ、トゲカバノリ、カタオゴノリ、リュウキウオゴノリ、セイヨウオゴノリ、イツツギヌ、ユミガタオゴノリ、クビレオゴノリ、モサオゴノリ、キヌカバノリ、テングサモドキ属：ハチジョウテングサモドキ、フシクレノリ属：フシクレノリ、ナミイワタケ属：ナミイワタケ、カイメンソウ属：カイメンソウ、オキツノリ属：オキツノリ、サイミ属：イタニグサ、サイミ、ハリガネ、ハスジグサ属：ハスジグサ、スギノリ属：イカノアシ、ホソイボノリ、ノボノリ、クロハギンナンソウ属：クロハギンナンソ

ウ、アカバギンナンソウ属：アカバギンナンソウ、ヒシブクロ属：ヒシブクロ、マダラグサ属：トゲマダラ、エツキマダラ、タオヤギソウ属：タオヤギソウ、ハナサクラ、フクロツナギ属：フクロツナギ、スジコノリ、ハナノエダ属：ハナノエダ、ヒラタオヤギ属：ヒラタオヤギ、ダルス属：ダルス、マサゴシバリ、アナダルス、ウエバグサ属：ウエバグサ、ベニフクロノリ属：ベニフクロノリ、フシツナギ属：フシツナギ、ヒメフシツナギ、ヒロハフシツナギ、ワツナギソウ属：ヒラワツナギソウ、ウスバワツナギソウ、イギス属：イギス、ケイギス、ハリイギス、ハネイギス、アミクサ、エゴノリ属：エゴノリ、フトイギス、サエダ属：サエダ、チリモミジ属：チリモミジ、コノハノリ科：ハブタエノリ、コノハノリ、スズシロノリ、ウスベニ属：ウスベニ、ハスジギヌ属：ハスジギヌ、ナガコノハノリ属：ナガコノハノリ、スジギヌ属：スジギヌ、アツバスジギヌ、ハイウスバノリ属：カギウスバノリ、ヤレウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、ウスバノリモドキ属：ウスバノリモドキ、アヤニシキ属：アヤニシキ、アヤギヌ属：アヤギヌ、ダジア属：エナシダジア、シマダジア属：イソハギ、シマダジア、ダジモドキ属：ダジモドキ、イトグサ属：モロイトグサ、フトイグサ、マクリ属：マクリ、ヤナギノリ属：ハナヤナギ、ユナ、ヤナギノリ、モツレユナ、ベニヤナギコリ、モサヤナギ、ササバヤナギノリ、ソゾ属：クロソゾ、コブソゾ、ハネソゾ、ソゾノハナ、ハネグサ属：ハネグサ、ケハネグサ、コザネモ属：コザネモ、イソムラサキ、ホソコザネモ、ヒメゴケ属：ヒメゴケ、クロヒメゴケ、ヒオドシグ属：キクヒオドシ、ヒオドシグサ、ウスバヒオドシ、アイソメグサ属：アイソメグサ、スジナシグサ属：スジナシグサ、イソバショウ属：イソバショウ、フジマツモ属：フジマツモ、ノコギリヒバ属：ハケサキノコギリヒバ、カワモズク属：カワモズク、アオカワモズク、ヒメカワモズク、イデユコゴメ属：イデユコゴメ、オキチモズク属：オキチモズク、イトグサ属、チノリモ属：チノリモ、チスジノリ属：チスジノリ等)。

【0048】車軸藻類(シャジクモ属、シラタマモ属、ホシツリモ属：ホシツリモ、リクノタムヌス属、フラスコモ属：ヒメフラスコモ、チャボフラスコモ、トリペラ属等)、黄色藻類(ヒカリモ属：ヒカリモ等)等。

【0049】又、動物系原料由来の素材としては、鶏冠抽出物、牛又は豚、人の胎盤抽出物、牛又は豚の胃、十二指腸、腸、脾臓の抽出物若しくはその分解物、牛又は豚の脳組織の抽出物、コラーゲン加水(酸、アルカリ、酵素等)分解物や水溶性コラーゲン又はアシル化コラーゲン等のコラーゲン誘導体、コラーゲン加水分解物、エラスチン、エラスチン加水分解物、水溶性エラスチン誘導体、ケラチン及びその分解物又はそれらの誘導体、シルク蛋白及びその分解物又はそれらの誘導体、豚又は牛血球蛋白分解物(グロビンペプチド)、牛又は豚ヘモグ

ロビン分解物(ヘミン、ヘマチン、ヘム、プロトヘム、ヘム鉄等)、牛乳、カゼイン及びその分解物又はそれらの誘導体、脱脂粉乳及びその分解物又はそれらの誘導体、ラクトフェリン又はその分解物、鶏卵成分、魚肉分解物、核酸関連物質(リボ核酸、デオキシリボ核酸)等。

【0050】又、植物又は動物系原料由来の素材としては、遺伝子組み替え体や細胞融合体由来の任意の部位、細胞、組織、器官、代謝物等も使用することができる。更に、任意の部位、細胞、組織、器官等を細胞培養することで得られる、例えば未分化細胞群や分化途中の細胞群等も使用することができる。

【0051】(14)海洋成分

深層水等の海水類、例えば、海水塩、海水乾燥物、死海又は大西洋又は太平洋の海より得た無機塩(塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウム等)、海泥又は泥(ファンゴ)類、例えば、イタリアファンゴ、ドイツファンゴ、アイフェルファンゴ、フライブルグファンゴ等の各地の海泥又は泥(含有成分：二酸化珪素、二酸化チタン、酸化アルミニウム、酸化鉄、酸化マンガン、酸化ナトリウム、酸化カリウム、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化ストロンチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、カルシウム、クロム、鉄、銅、ニッケル、亜鉛、鉛、マンガン、ヒ素、水)、聖徳石等。

【0052】(15)微生物培養代謝物

酵母代謝物、酵母菌抽出エキス、細菌代謝物、細菌抽出エキス、カビ又は放線菌代謝物、カビ又は放線菌抽出エキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキス、米発酵エキス、米糠(赤糠、白糠)発酵エキス、ユーグレナ抽出物又はその分解物又はそれら水溶性誘導体、トレハロース又はその誘導体、生乳又は脱脂粉乳の乳酸発酵物等。

【0053】(16)α-ヒドロキシ酸類

グリコール酸、クエン酸、リンゴ酸、酒石酸、乳酸等。

【0054】(17)無機顔料

無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、タルク、カオリン、ベントナイト、マイカ、雲母チタン、オキシ塩化ビスマス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化亜鉛、酸化チタン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、黄酸化鉄、ベンガラ、黒酸化鉄、グンジョウ、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンブラック、カラミン等。

【0055】(18)紫外線吸収/遮断剤

ベンゾフェノン誘導体(2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン-スルホン酸ナトリウム、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、テトラヒドロキシベンゾフェノン等)、パラアミノ安息香酸誘導体(パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラ

ジメチルアミノ安息香酸アミル、パラジメチルアミノ安息香酸オクチル等)、メトキシ桂皮酸誘導体(パラメトキシ桂皮酸エチル、パラメトキシ桂皮酸イソプロピル、パラメトキシ桂皮酸オクチル、パラメトキシ桂皮酸2-エトキシエチル、パラメトキシ桂皮酸ナトリウム、パラメトキシ桂皮酸カリウム、ジパラメトキシ桂皮酸モノ-2-エチルヘキサノ酸グリセリル等)、サリチル酸誘導体(サリチル酸オクチル、サリチル酸フェニル、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸ジプロピレングリコール、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸ミリスチル、サリチル酸メチル等)、アントラニル酸誘導体(アントラニル酸メチル等)、ウロカニン酸誘導体(ウロカニン酸、ウロカニン酸エチル等)、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、ウンベリフェロン、エスクリン、桂皮酸ベンジル、シノキサート、オキシベンゾン、ジオキシベンゾン、オクタベンゾン、スリソベンゾン、ベンゾレスノール、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、ネオヘリオパン、エスカロール、酸化亜鉛、タルク、カオリン等。

【0056】(19)美白剤

パラアミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンC又はその誘導体(ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシド等)、ビタミンE又はその誘導体、コウジ酸又はその誘導体、オキシベンゾン、ベンゾフェノン、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、胎盤エキス、エラグ酸、ルシノール等。

【0057】(20)チロシナーゼ活性阻害剤

ビタミンC又はその誘導体(ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシド等)、ハイドロキノン又はその誘導体(ハイドロキノンベンジルエーテル等)、コウジ酸又はその誘導体、ビタミンE又はその誘導体、N-アセチルチロシン又はその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、胎盤エキス、エラグ酸、アルブチン、ルシノール、シルク抽出物、植物エキス(カミツレ、クワ、クチナシ、トウキ、ワレモコウ、クララ、ヨモギ、スイカズラ、キハダ、ドクダミ、マツホド、ハトムギ、オドリコソウ、ホップ、サンザシ、ユーカリ、セイヨウノコギリソウ、アルテア、ケイヒ、マンケイシ、ハマメリス、ヤマグワ、延命草、桔梗、トシ

シ、続随子、射干、麻黄、センキュウ、ドッカツ、サイコ、ボウフウ、ハマボウフウ、オウゴン、牡丹皮、シャクヤク、ゲンノショウコ、葛根、甘草、五倍子、アロエ、ショウマ、紅花、緑茶、紅茶、阿仙薬)等。

【0058】(21)メラニン色素還元/分解物質

フェニル水銀ヘキサクロロフェン、酸化第二水銀、塩化第一水銀、過酸化水素水、過酸化亜鉛、ハイドロキノン又はその誘導体(ハイドロキノンベンジルエーテル)等。

【0059】(22)ターンオーバーの促進作用/細胞賦活物質

ハイドロキノン、乳酸菌エキス、胎盤エキス、霊芝エキス、ビタミンA、ビタミンE、アラントイン、脾臓エキス、胸腺エキス、酵母エキス、発酵乳エキス、植物エキス(アロエ、オウゴン、スギナ、ゲンチアナ、ゴボウ、シコン、ニンジン、ハマメリス、ホップ、ヨクイニン、オドリコソウ、センブリ、トウキ、トウキンセンカ、アマチャ、オトギリソウ、キュウリ、タチジャコウソウ、ローズマリー、パセリ)等。

【0060】(23)収斂剤

コハク酸、アラントイン、塩化亜鉛、硫酸亜鉛、酸化亜鉛、カラミン、パラフェノールスルホン酸亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム、レゾルシン、塩化第二鉄、タンニン酸(カテキン化合物を含む)等。

【0061】(24)活性酸素消去剤

SOD、カタラーゼ、グルタチオンパーオキシダーゼ等。

【0062】(25)抗酸化剤

ビタミンC又はその塩、ステアリン酸エステル、ビタミンE又はその誘導体、ノルジヒドログアセレン酸、ブチルヒドロキシトルエン(BHT)、ブチルヒドロキシアニソール(BHA)、ヒドロキシチロソール、パラヒドロキシアニソール、没食子酸プロピル、セサモール、セサモリン、ゴシボール、プロポリス等。

【0063】(26)過酸化脂質生成抑制剤

β -カロチン、植物エキス(ゴマ培養細胞、アマチャ、オトギリソウ、ハマメリス、チョウジ、メリッサ、エンメイソウ、シラカバ、サルビア、ローズマリー、南天実、エイジツ、イチョウ、緑茶)等。

【0064】(27)抗炎症剤

イクタモール、インドメタシン、カオリン、サリチル酸、サリチル酸ナトリウム、サリチル酸メチル、アセチルサリチル酸、塩酸ジフェンヒドラミン、d-カンフル、dl-カンフル、ヒドロコルチゾン、グアイアズレン、カマズレン、マレイン酸クロロフェニラミン、グリチルリチン酸又はその塩、グリチルレチン酸又はその塩、甘草エキス、シコンエキス、エイジツエキス、プロポリス等。

【0065】(28)抗菌・殺菌・消毒薬

アクリノール、イオウ、グルコン酸カルシウム、グルコ

ン酸クロロヘキシジン、スルファミン、マーキュロクロム、ラクトフェリン又はその加水分解物、塩化アルキルジアミノエチルグリシン液、トリクロサン、次亜塩素酸ナトリウム、クロラミンT、サラシ粉、ヨウ素化合物、ヨードホルム、ソルビン酸又はその塩、プロピオン酸又はその塩、サルチル酸、デヒドロ酢酸、パラヒドロキシ安息香酸エステル類、ウンデシレン酸、チアミンラウリル硫酸塩、チアミンラウリル硝酸塩、フェノール、クレゾール、p-クロロフェノール、p-クロロ-m-キシレノール、p-クロロ-m-クレゾール、チモール、フェネチルアルコール、0-フェニルフェノール、イルガサンCH365、ハロカルバン、ヘキサクロロフェン、クロロヘキシジン、エタノール、メタノール、イソプロピルアルコール、ベンジルアルコール、エチレングリコール、プロピレングリコール、2-フェノキシエタノール、1,2-ペンタンジオール、ジンクピリジオン、クロロブタノール、イソプロピルメチルフェノール、非イオン界面活性剤（ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル等）、両性界面活性剤、アニオン界面活性剤（ラウリル硫酸ナトリウム、ラウロイルサルコシンカリウム等）、カチオン界面活性剤（臭化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化メチルロザニリン）、ホルムアルデヒド、ヘキサミン、ブリアントグリーン、マラカイトグリーン、クリスタルバイオレット、ジャーマル、感光素101号、感光素201号、感光素401号、N-長鎖アシル塩基性アミノ酸誘導体及びその酸附加塩、酸化亜鉛、ヒノキチオール、クジン、プロポリス等。

【0066】(29)保湿剤

グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ヒアルロン酸又はその塩、ポリエチレングリコール、コンドロイチン硫酸又はその塩、水溶性キチン又はその誘導体或いはキトサン誘導体、ピロリドンカルボン酸又はその塩、乳酸ナトリウム、ミニササニシキエキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキス、ヘチマ水、シラカバ（白樺）又は赤松の樹液

【0067】(30)エラストマーゼ活性阻害剤

フロオロリン酸ジイソプロピル、植物エキス（オウゴン、オトギリソウ、クララ、桑の葉、ケイヒ、ゲンノショウコ、コンフリー、サルビア、セイヨウニワトコ、ボダイジュ、ボタンビ）、海藻エキス等。

【0068】(31)頭髮用剤

二硫化セレン、臭化アルキルイソキノリニウム液、ジンクピリチオン、ビフェナミン、チアントール、カスターチンキ、ショウキョウチンキ、トウガラシチンキ、塩酸キニーネ、強アンモニア水、臭素酸カリウム、臭素酸ナトリウム、チオグリコール酸等。

【0069】(32)抗アンドロゲン剤

卵胞ホルモン（エストロン、エストラジオール、エチニ

ルエストラジオール等）、イソフラボン、オキシンドロン等。

【0070】(33)末梢血管血流促進剤

ビタミンE又はその誘導体、センブリエキス、ニンニクエキス、人参エキス、アロエエキス、ゲンチアナエキス、トウキエキス、セファランチン、塩化カルプロニウム、ミノキシジル等。

【0071】(34)刺激剤

トウガラシチンキ、ノニル酸バニルアミド、カンタリスチンキ、ショウキョウチンキ、ハッカ油、l-メントール、カンフル、ニコチン酸ベンジル等。

【0072】(35)代謝活性化剤

感光素301号、ヒノキチオール、パントテン酸又はその誘導体、アラントイン、胎盤エキス、ビオチン、ペンタデカン酸グリセリド等。

【0073】(36)抗脂漏剤

ピリドキシン又はその誘導体、イオウ、ビタミンB6等。

【0074】(37)角質溶解剤

レゾルシン、サリチル酸、乳酸、尿素等。

【0075】(38)酸化剤

過酸化水素水、過硫酸ナトリウム、過硫酸アンモニウム、過ホウ酸ナトリウム、過酸化尿素、過炭酸ナトリウム、過酸化トリポリリン酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム、過酸化ピロリン酸ナトリウム、過酸化オルソリン酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム過酸化水素付加体、硫酸ナトリウム過酸化水素付加体、塩化ナトリウム過酸化水素付加体、 β -チロシナーゼ酵素液、マッシュルーム抽出液等。

【0076】(39)除毛剤

硫酸ストロンチウム、硫化ナトリウム、硫化バリウム、硫化カルシウム等の無機系還元剤、チオグリコール酸又はその塩類（チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸ナトリウム、チオグリコール酸リチウム、チオグリコール酸マグネシウム、チオグリコール酸ストロンチウム）等。

【0077】(40)毛髪膨潤剤

エタノールアミン、尿素、グアニジン等。

【0078】(41)染料剤

5-アミノオルトクレゾール、2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニトロフェノール、1-アミノ-4-メチルアミノアントラキノン、3,3'-イミノジフェノール、塩酸2,4-ジアミノフェノキシエタノール、塩酸2,4-ジアミノフェノール、塩酸トルエン-2,5-ジアミン、塩酸ニトロパラフェニレンジアミン、塩酸パラフェニレンジアミン、塩酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、塩酸メタフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、酢酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、1,4-ジアミノアントラキノン、2,6-ジアミノピリジン、1,5-ジヒドロキシナフタレン、トルエン-2,5-ジアミン、トルエン-3,4-

ジアミン、ニトロパラフェニレンジアミン、パラアミノフェノール、パラニトロオルトフェニレンジアミン、パラフェニレンジアミン、パラメチルアミノフェノール、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、N,N'-ビス(4-アミノフェニル)-2,5-ジアミノ-1,4-キノンジイミン、5-(2-ヒドロキシエチルアミノ)-2-メチルフェノール、N-フェニルパラフェニレンジアミン、メタアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、硫酸5-アミノオルトクレゾール、硫酸2-アミノ-5-ニトロフェノール、硫酸オルトアミノフェノール、硫酸オルトクロルパラフェニレンジアミン、硫酸4,4'-ジアミノジフェニルアミン、硫酸2,4-ジアミノフェノール、硫酸トルエン-2,5-ジアミン、硫酸ニトロパラフェニレンジアミン、硫酸パラアミノフェノール、硫酸パラニトロオルトフェニレンジアミン、硫酸パラニトロメタフェニレンジアミン、硫酸パラフェニレンジアミン、硫酸パラメチルアミノフェノール、硫酸メタアミノフェノール、硫酸メタフェニレンジアミン、カテコール、ジフェニルアミン、 α -ナフトール、ヒドロキノン、ピロガロール、フロログルシン、没食子酸、レゾルシン、タンニン酸、2-ヒドロキシ-5-ニトロ-2',4'-ジアミノアゾベンゼン-5'-スルホン酸ナトリウム、ヘマテイン等。

【0079】(42)香料

ジャコウ、シベット、カストリウム、アンバーgris等の天然動物性香料、アニス精油、アンゲリカ精油、イランイラン精油、イリス精油、ウイキョウ精油、オレンジ精油、カナンガ精油、カラウエー精油、カルダモン精油、グアヤクウッド精油、クミン精油、黒文字精油、ケイ皮精油、シンナモン精油、ゲラニウム精油、コパイバルサルサム精油、コリアンデル精油、シソ精油、シダーウッド精油、シトロネラ精油、ジャスミン精油、ジンジャーグラス精油、杉精油、スベアミント精油、西洋ハッカ精油、大茴香精油、チュベローズ精油、丁香精油、橙花精油、冬緑精油、トルーバルサルサム精油、バチュリー精油、バラ精油、パルマローザ精油、桧精油、ヒバ精油、白檀精油、プチグレン精油、ベイ精油、ベチバ精油、ベルガモット精油、ペルーバルサルサム精油、ポアドローズ精油、芳樟精油、マンダリン精油、ユーカリ精油、ライム精油、ラベンダー精油、リナロエ精油、レモングラス精油、レモン精油、ローズマリー精油、和種ハッカ精油等の植物性香料、その他合成香料等。

【0080】(43)色素・着色剤

赤キャベツ色素、赤米色素、アカネ色素、アナトー色素、イカスミ色素、ウコン色素、エンジュ色素、オキアミ色素、柿色素、カラメル、金、銀、クチナシ色素、コーン色素、タマネギ色素、タマリンド色素、スピルリナ色素、ソバ全草色素、チェリー色素、海苔色素、ハイビスカス色素、ブドウ果汁色素、マリーゴールド色素、紫イモ色素、紫ヤマイモ色素、ラック色素、ルチン等。

【0081】(44)その他

ホルモン類、金属イオン封鎖剤、pH調整剤、キレート剤、防腐・防バイ剤、清涼剤、安定化剤、乳化剤、動・植物性蛋白質及びその分解物、動・植物性多糖類及びその分解物、動・植物性糖蛋白質及びその分解物、血流促進剤、抗炎症剤・消炎剤・抗アレルギー剤、創傷治療剤、増泡剤、増粘剤、酵素、精製水(電子水、小クラスター化等)、口腔用剤、消臭・脱臭剤等が上げられ、これらと併用することによって、本発明効果又は他の美容的効果の相加的又は相乗的向上が期待できる。

【0082】

【実施例】以下、製造例、試験例、処方例を示し本発明をより詳しく説明する。但し、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0083】[製造例1]ココヤシ半成熟果の胚乳あるいは成熟果脂肪層を削りとり、圧搾したもの(1kg)に *Lactobacillus casei* (0.1~0.8kg) を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った。更に、必要に応じてエタノール、1,3-ブチレングリコール等を加えた後、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0084】[製造例2]ココヤシ半成熟果の胚乳あるいは成熟果脂肪層を削りとり、圧搾したもの(1kg)に *Lactobacillus bulgaricus* (0.1~0.8kg) を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った。更に、必要に応じてエタノール、1,3-ブチレングリコール等を加えた後、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0085】[製造例3]市販のココナッツミルク(1kg)に *Lactobacillus bulgaricus* (0.1~0.8kg) を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った。更に、必要に応じてエタノール、1,3-ブチレングリコール等を加えた後、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0086】[製造例4]ココヤシ半成熟果の胚乳あるいは成熟果脂肪層を削りとり、圧搾したもの(1kg)に *Bifidobacterium bifidum* (0.1~0.8kg) を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った。更に、必要に応じてエタノール、1,3-ブチレングリコール等を加えた後、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0087】[製造例5]ココヤシ胚乳液(1kg)に *Streptococcus lactis* (0.1~0.8kg) を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った。更に、必要に応じてエタノール、1,3-ブチレングリコール等を加えた後、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0088】[製造例6]市販のココナッツミルク(1kg)

に *Streptococcus thermophilus* (0.1~0.8kg) を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った。更に、必要に応じてエタノール、1,3-ブチレングリコール等を加えた後、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0089】〔試験1〕チロシナーゼ活性阻害作用試験
(試験方法) チロシン溶液(L-チロシン0.3mg/mL) 1.0mL、マッكلバイン緩衝液(pH6.5) 2.0mL及び検体溶液を0.2mLを混合して、37℃恒温槽中で、約10分間放置した後、これにチロシナーゼ溶液(マッシュルーム由来、2500unit/mL) 0.1mLを加えた後、475nmの吸光度を測定(A)し、その後、この反応液を37℃恒温槽中で、20分間放置

後、同様に、475nmの吸光度を測定する(A')。又、同時にブランクとして、検体溶液の代わりに、精製水にて同様な操作で吸光度を測定(a)、(a')してチロシナーゼ活性阻害率を数1により求めた。表2はその結果である。

(試料) 検体溶液として、製造例1~6によって得られた本発明品を固形分濃度0.1%となるよう精製水で調整し、試験に供した。尚、比較対照として同濃度のコウジ酸を用い、同様の試験を行った。

【0090】〈数1〉

阻害率(%) = $\{(a' - a) - (A' - A)\} / (a' - a) \times 100$

【0091】

【表1】

【試験1】チロシナーゼ活性阻害作用結果							
試料	製造例1	製造例2	製造例3	製造例4	製造例5	製造例6	対 照
阻害率(%)	29.1	35.1	32.4	34.3	28.0	30.9	52.0

【0092】表1より、本発明品は、チロシナーゼ活性阻害作用を有することが確認された。

【0093】〔試験2〕保湿性試験1

本発明品の保湿性を評価するため、モニターによる角層水分含有量の経時変化を電気伝導度を測定することにより求めた。

(試料溶液) 製造例1~6の本発明品(固形分濃度0.01%に調整)

(測定器) IMPEDANCE METER SKICON-200; IBS株式会社製

(モニター) 20才女性、22才女性、25才女性

(試験環境) 24℃、50%RH

(方 法) 試験1時間前より試験環境に調整された恒温恒湿室にモニターを入室させ、安定させる。その後、モニターの前腕屈側に各試料溶液(1mL)を塗布し、60秒後に余剰な水分を除去し、角層の電気伝導度を経時的に測定する。

【0094】図1~2はその結果である。本発明品は同固形分濃度のアロエベラ抽出物(比較例)より、保湿効果が高くかつ長く維持されていることが判明した。

【0095】〔試験3〕保湿性試験2

本発明品の保湿性を評価するため、モニターによる経表皮水分喪失量の経時変化を測定した。

(試料溶液) 製造例1~6の本発明品(固形分濃度0.01%に調整)

(測定器) TEWAMETER TM210; COURAGE+KHAZAKA Electronic GmbH製

(モニター) 23才女性、30才男性、25才女性、35才女性、37才男性

(方 法) モニターの左右前腕屈側に各試料水溶液(1mL)を1日3回塗布する。3回目の塗布後、恒温恒湿室(24℃、50%RH)にて1時間安定させた後、経表皮水分喪失量の測定を始める。測定は、2秒間隔で3分間測定し、全数値の平均値を被検部位のTEWL値とする。尚、各々のブランクは検体塗布前に同条件にて測定した。

【0096】表2は5名のモニターの平均水分変化量の結果である。本発明品は経表皮水分蒸発量を抑制し、保湿作用を示すことが判明した。

【0097】

(表2)

試 料 溶 液	経皮水分蒸散量 (g/m ² hr)
ブランク	17.9
精製水	15.2
製造例1	8.0
製造例2	8.1
製造例3	8.3
製造例4	8.8
製造例5	8.7
製造例6	8.5
比較対象：アロエベラ	10.0

【0098】〔試験4〕安全性試験

(1) 皮膚一次刺激性試験

製造例1～6によって得られた本発明品を乾燥固形分濃度が約1.0%となるように精製水にて調製し、背部を剪毛した日本白色家兎（雌性，1群3匹，体重2.3kg前後）の皮膚に適用した。判定は、適用後24,48,72時間に一次刺激性の評点法にて紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果は、すべての動物において、何など、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

【0099】〔試験5〕安全性試験

(2) 皮膚累積刺激性試験

同様に製造例1～6によって得られた本発明品を乾燥固形分濃度が約1.0%となるように精製水にて調製し、側腹部を剪毛したハートレー系モルモット（雌性，1群3匹，体重320g前後）の皮膚に1日1回、週5回、0.5mL／匹を塗布した。塗布は2週に渡って行い、剪毛は各週の最終塗布日に行った。判定は、各塗布日及び最終塗布日の翌日に一次刺激性の評点法にて紅斑及び浮腫を指標

(処方例1) 乳液

	重量%
1. スクワラン	8.0
2. ホホバ油	7.0
3. セチルアルコール	1.5
4. グリセリンモノステアレート	2.0
5. ポリオキシエチレン(20)セチルエーテル	3.0
6. ポリオキシエチレン(20)ソルビタンモノオレート	2.0
7. 1,3-ブチレングリコール	1.0
8. グリセリン	2.0
9. A: 製造例1のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
B: 製造例2のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
C: 製造例3のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
D: 製造例4のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
E: 製造例5のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
F: 製造例6のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
※ A～F 何れか1種の発酵代謝物	5.0
10. 防腐剤（パラオキシ安息香酸エステル）	適量

として行った。その結果は、すべての動物において、2週間に渡って何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

【0100】〔試験6〕安全性試験

(3) 急性毒性試験

同様に製造例1～6によって得られた本発明品を減圧濃縮・乾燥して得られた粉末（乾燥固形分約1.0%）を試験前、4時間絶食させたddy系マウス（雄性及び雌性，1群5匹，5週齢）に2,000mg/kg量経口投与し、毒性症状の発現、程度などを経時的に観察した。その結果、すべてのマウスにおいて14日間何等異状を認めず、又、解剖の結果も異状がなかった。よって、LD₅₀は2,000mg/kg以上と判定された。

【0101】〔処方例〕各種製剤の製造

本発明による化粧料組成物を各種製造した。以下にその処方例を示すが、本発明はこれらに限定されない。

【0102】

11. 香料	適量
12. 精製水	100とする残余

【0103】

(処方例2) 乳液

	重量%
1. スクワラン	8.0
2. ホホバ油	7.0
3. パラアミノ安息香酸グリセリル	1.0
4. ウロカニン酸エチル	1.0
5. ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩	1.0
6. セチルアルコール	1.5
7. グリセリンモノステアレート	2.0
8. ポリオキシエチレン (20) セチルエーテル	3.0
9. ポリオキシエチレン (20) ソオルビタンモノオレート	2.0
10. 1,3-ブチレングリコール	1.0
11. グリセリン	2.0
12. ブラジルヤシ圧搾物乳酸菌発酵代謝物	3.0
13. ブタジルゾウゲヤシ圧搾物乳酸菌発酵代謝物	3.0
16. コウボク熱水抽出液	3.0
17. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸エステル)	適量
18. 精製水	100とする残余

【0104】

(処方例3) 化粧用オイル

	重量%
1. 流動パラフィン	30.0
2. スクワラン	20.0
3. オリーブ油	20.0
4. パルミチン酸イソプロピル	10.0
5. グレープフルーツ果実又は葉熱水抽出液	3.0
6. ジョウオウヤシ胚乳液乳酸菌発酵代謝物	3.0
7. オオミヤシ圧搾物乳酸菌発酵代謝物	2.0
8. オリーブ油	1.0
9. シア脂	1.0
10. ブチルヒドロキシアニソール	0.1
11. ビタミンE誘導体	0.1
12. 防腐剤 (塩化ベンザルコニウム)	適量
13. 香料 (ジャコウ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0105】

(処方例4) 柔軟性化粧水

	重量%
1. グリセリン	5.0
2. 1,3-ブチレングリコール	5.0
3. モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタン (20E, 0)	1.0
4. エタノール	15.0
5. 製造例3のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
6. 製造例4のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
7. ミチヤナギ50%エタノール抽出液	1.0
8. イレクス・グアユサ50%エタノール抽出液	1.0
9. 抗菌・防腐剤 (ラクトフェリン溶液)	適量

【 0 1 0 6 】	10. 香料 (西洋薄荷水)	適量
	11. 精製水	100とする残余
(処方例 5) 収れん化粧水		
		重量%
	1. ソルビット	2.0
	2. P O E (20) オレイルアルコール	1.0
	3. エタノール	15.0
	4. 製造例 1 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
	5. 製造例 2 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
	6. アラントイン	0.2
	7. 収れん剤 (スルホ石炭酸亜鉛)	0.2
	8. 抗菌・防腐剤 (チアミンラウリル硫酸塩)	適量
	9. 香料 (ラベンダー水)	適量
	10. 精製水	100とする残余
【 0 1 0 7 】		
(処方例 6) 2 層式化粧水 (液～液型)		
		重量%
	1. スクワラン	8.0
	2. P O E ソルビタンテトラオレイン酸エステル	0.3
	3. ソルビット	1.0
	4. エタノール	15.0
	5. ブラジルヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
	6. ココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
	7. オオミヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
	8. グリセリン	1.0
	9. アスコルビン酸	0.2
	10. 収れん剤 (カラミン)	0.1
	11. 防腐剤 (フェノキシエタノール)	適量
	12. 香料 (レモン水)	適量
	13. 精製水	100とする残余
【 0 1 0 8 】		
(処方例 7) カーマインローション (液～固型)		
		重量%
	1. グリセリン	3.0
	2. 1,3-ブチレングリコール	5.0
	3. エタノール	15.0
	4. 酸化鉄 (ベンガラ)	0.2
	5. 酸化亜鉛	0.5
	6. カオリン	2.0
	7. 製造例 5 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
	8. 製造例 6 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
	9. プラセンタエキス	2.0
	10. カンファー	0.2
	11. フェノール	0.03
	12. 防腐剤 (感光素 2 0 1 & 4 0 1 号)	適量
	13. 香料 (菩提樹水)	適量
	14. 精製水	100とする残余
【 0 1 0 9 】		
(処方例 8) パック		

	重量%
1. ポリビニルアルコール	15.0
2. カルボキシメチルセルコースナトリウム	5.0
3. プロピレングリコール	3.0
4. エタノール	10.0
5. 製造例2のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
6. 製造例4のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
7. <i>Cocos australis</i> 抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
8. シラン30%エタノール抽出液	2.0
9. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸エステル)	適量
10. 香料 (当帰水)	適量
11. 精製水	100とする残余

【0110】

(処方例9) ピールオフパック

	重量%
1. グリセリン	5.0
2. プロピレングリコール	4.0
3. ポリビニルアルコール	15.0
4. エタノール	8.0
5. ポリオキシエチレングリコール	1.0
6. パントテニルエチルエーテル	1.0
7. ココヤシ熱水抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
8. ジョウオウヤシ圧搾物乳酸菌発酵代謝物	2.0
9. オオミヤシ圧搾物乳酸菌発酵代謝物	2.0
10. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸エステル)	適量
11. 香料 (檜葉水)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0111】

(処方例10) コールドクリーム

	重量%
1. サラシミツロウ	11.0
2. 流動パラフィン	22.0
3. ラノリン	10.0
4. オリーブ油	5.0
5. カミツレ油	5.0
6. パーム油	5.0
7. ホウ砂	0.5
8. 製造例3のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
9. 製造例6のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
10. 1,3-ブチレングリコール	5.0
11. 液状シア脂	1.0
12. 防腐剤 (アクリノール)	0.1
13. 香料 (セージ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0112】

(処方例11) エモリエントクリーム

	重量%
1. ステアリン酸	2.0
2. ステアリルアルコール	7.0
3. 還元ラノリン	2.0

4. スクワラン	5.0
5. オクチルドデカノール	6.0
6. ポリオキシエチレンセチルエーテル (25E.O.)	3.0
7. 親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0
8. プロピレングリコール	5.0
9. 製造例4のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	3.0
10. オオミヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	3.0
11. <i>Cocos plumosa</i> 圧搾液乳酸菌発酵代謝物	3.0
12. 防腐剤 (パラベン)	適量
13. 香料 (丁子水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0113】

(処方例12) 洗顔クリーム

	重量%
1. ミリスチン酸	25.0
2. ステアリン酸	5.0
3. 牛脂脂肪酸	5.0
4. プロピレングリコール	10.0
5. 水酸化カリウム	6.0
6. ヤシ油脂脂肪酸ジエタノールアミド	6.0
7. ジョウオウヤシ圧搾液乳酸菌発酵代謝物	2.0
8. ブラジルヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
9. ヘチマ果実又は茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
10. グリチルレチン酸ジカリウム	1.0
11. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1
12. 香料 (セージ水)	適量
13. 精製水	100とする残余

【0114】

(処方例13) 洗顔クリーム

	重量%
1. ステアリン酸	10.0
2. パルミチン酸	10.0
3. ミリスチン酸	12.0
4. ラウリン酸	4.0
5. オレイルアルコール	1.5
6. ラノリン誘導体 (E.O. 付加物)	1.0
7. グリセリン	18.0
8. 水酸化カリウム	6.0
9. A: 製造例1のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
B: 製造例2のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
C: 製造例3のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
D: 製造例4のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
E: 製造例5のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
F: 製造例6のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
※ A~F 何れか1種の発酵代謝物	5.0
10. グリチルリレチン酸	1.0
11. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1
12. 香料 (当帰水)	適量
13. 精製水	100とする残余

【0115】

(処方例 14) ボディーソープ

	重量%
1. ラウリン酸カリウム	15.0
2. ミリスチン酸カリウム	5.0
3. プロピレングリコール	5.0
4. 乳清	1.5
5. ココヤシ熱水抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
6. ブラジルヤシ胚乳液乳酸菌発酵代謝物	1.0
7. オオミヤシ胚乳液乳酸菌発酵代謝物	1.0
8. ポリエチレン末	0.5
9. ヒドロキシプロピルキトサン溶液	0.5
10. アミノ酸 (グリシン、グルタミン等)	0.5
11. 防腐剤 (ウンデシレン酸、フェノール)	適量
12. pH調整剤	適量
13. 香料 (ラベンダー水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【 0116 】

(処方例 15) サンスクリーン化粧品 (O/W型)

	重量%
1. オキシベンゾン	2.0
2. パラメトキシケイ皮酸オクチル	5.0
3. スクワラン	10.0
4. ワセリン	5.0
5. ステアリルアルコール	3.0
6. ステアリン酸	3.0
7. グリセリルモノステアレート	2.0
8. ポリアクリル酸エチル	1.0
9. 1,3-ブチレングリコール	6.0
10. エデト酸二ナトリウム	0.1
11. トリエタノールアミン	1.0
12. 二酸化チタン	5.0
13. 製造例 1 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	0.5
14. 製造例 2 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	0.5
15. 桑白皮50%ジプロピレングリコール抽出液	0.5
16. 紫根50%ジプロピレングリコール抽出液	0.5
17. 防腐剤 (パラベン)	適量
18. 香料 (林檎水)	適量
19. 精製水	100とする残余

【 0117 】

(処方例 16) サンスクリーン化粧品 (オイルタイプ)

	重量%
1. 流動パラフィン	70.0
2. パラアミノ安息香酸エチル	1.0
3. テトラヒドロキシベンゾフェノン	1.0
4. セチルオクタノエート	25.0
5. 製造例 4 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
6. 製造例 5 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
7. ジョウオウヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
8. ユキノシタ全草30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
9. ハトムギ全草50%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5

10. 茴香果実30%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
11. 酸化防止剤（ブチルヒドロキシトルエン）	適量
12. 香料（ボダイジュ水）	適量

【 0 1 1 8 】

(処方例 1 7) クリームファンデーション (O / W 型)

	重量%
1. ステアリン酸	4.0
2. モノステアリン酸グリセリン	3.0
3. セタノール	1.5
4. ミリスチン酸イソプロピル	7.0
5. 流動パラフィン	10.0
6. サラシミツロウ	3.0
7. トリエタノールアミン	1.5
8. グリセリン	3.0
9. ベントナイト	1.0
10. 酸化チタン	8.0
11. 2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン	8.0
12. カオリン	3.0
13. タルク	3.0
14. 着色顔料（黄酸化鉄）	1.0
15. 製造例 3 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物乾燥粉末	0.2
16. 製造例 6 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物乾燥粉末	0.2
17. 防腐剤（パラベン）	適量
18. 香料（ローズ水）	適量
19. 精製水	100とする残余

【 0 1 1 9 】

(処方例 1 8) シャンプー

	重量%
1. ラウリル硫酸トリエタノールアミン	5.0
2. ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウム	12.0
3. 1,3-ブチレングリコール	4.0
4. ラウリン酸ジエタノールアミド	2.0
5. エデト酸二ナトリウム	0.1
6. 製造例 2 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
7. 製造例 4 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
8. <i>Cocos plumosa</i> 抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
9. ヒドロキシプロピルキトサン溶液	2.0
10. ムコ多糖体溶液	1.0
11. 抗菌・防腐剤（感光素 1 0 1 号）	適量
12. pH調整剤	適量
13. 香料（白檀水）	適量
14. 精製水	100とする残余

【 0 1 2 0 】

(処方例 1 9) リンス

	重量%
1. 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2. セトステアリルアルコール	2.0
3. ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4. プロピレングリコール	5.0
5. 製造例 3 のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0

6. ブラジルヤシ胚乳液乳酸菌発酵代謝物	1.0
7. オオミヤシ胚乳液乳酸菌発酵代謝物	1.0
8. フキタンボボ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
9. ヒドロキシエチルキトサン溶液	1.0
10. トレハロース溶液	1.0
11. 加水分解シルク溶液	1.0
12. 抗菌・防腐剤（塩化ベンザルコニウム）	適量
13. 香料（ラベンダー水）	適量
14. 精製水	100とする残余

【 0 1 2 1 】

（処方例20）リンス

	重量%
1. 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2. セトステアリルアルコール	2.0
3. ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4. プロピレングリコール	5.0
5. エチレングリコール	3.0
6. 製造例1のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
7. 製造例2のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
8. Cocos australia 抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
9. トレハロース溶液	1.0
10. 加水分解セラチン溶液	1.0
11. 抗菌・防腐剤（塩化ベンザルコニウム）	適量
12. 香料（カミツレ水）	適量
13. 精製水	100とする残余

【 0 1 2 2 】

（処方例21）ヘアーリキッド

	重量%
1. エタノール	29.0
2. ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0
3. ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0
4. トリエタノールアミン	1.0
5. ユズ熱水抽出液	2.0
6. 製造例2のココヤシ熱水抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
7. ジョウオウヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
8. オオミヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
9. メリッサ全草50%エタノール抽出液	1.0
10. オタネニンジン根50%エタノール抽出液	1.0
11. 塩化カルプロニウム	0.3
12. ヒノキチオール	0.5
13. ケラチン分解溶液	1.0
14. 抗菌・防腐剤（パラベン、塩化ベンザルコニウム）	適量
15. 香料（センキュウ水）	適量
16. 精製水	100とする残余

【 0 1 2 3 】

（処方例22）ヘアーリキッド

	重量%
1. エタノール	29.0
2. ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0
3. ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0

4. トリエタノールアミン	1.0
5. トリメチレングリコール	5.0
6. ブラジルヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
7. ブラジルゾウゲヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	1.0
8. パセリ全草50%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
9. ビワ葉30%エタノール抽出液	1.0
10. アズレン	1.0
11. 抗菌・防腐剤（パラベン、塩化ベンザルコニウム）	適量
12. 香料（トウキ水）	適量
13. 精製水	100とする残余

【0124】

(処方例23) ヘアートニック

	重量%
1. エタノール	40.0
2. オレイン酸エチル	1.0
3. ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	2.0
4. ココヤシ熱水抽出物乳酸菌発酵代謝物	3.0
5. オオミヤシ熱水抽出物乳酸菌発酵代謝物	3.0
6. 牡丹皮50%エタノール抽出液	3.0
7. 柚子葉又は果実50%エタノール抽出液	3.0
8. 防腐剤（パラベン）	適量
9. 精製水	100とする残余

【0125】

(処方例24) ヘアートニック

	重量%
1. 1-メントール	0.2
2. エタノール	32.5
3. ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	0.5
4. プロピレングリコール	5.0
5. 塩酸ジフェンヒドラミン	0.3
6. ユズ熱水抽出液	2.0
7. A: 製造例1のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
B: 製造例2のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
C: 製造例3のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
D: 製造例4のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
E: 製造例5のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
F: 製造例6のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
※A～F 何れか1種の発酵代謝物	5.0
8. カルボキシメチルキチン溶液	1.0
9. ビタミンE誘導体	0.5
10. 抗菌・防腐剤（パラベン）	0.1
11. 香料（セージ水）	適量
12. 精製水	100とする残余

【0126】

(処方例25) 育毛・養毛剤

	重量%
1. エタノール	60.0
2. 製造例3のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	3.0
3. ブラジルヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	3.0
4. ジョウオウヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	3.0

5. 製造例4のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
6. ヨモギ葉又は茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
7. 矢車の実50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
8. ビタミンE誘導体	0.5
9. トウガラシチンキ	0.5
10. レゾルシン	0.5
11. グリチルリチン酸ジカリウム	0.5
12. カルボキシメチルキチン溶液	0.5
13. 牛ヘマチン液	0.5
14. ムチン溶液	0.5
15. アミノ酸（グリシン、グルタミン等）	0.5
16. 抗菌・防腐剤（パラベン）	0.1
17. 香料（ローズマリー水）	適量
18. 精製水	100とする残余

【0127】

(処方例26) 育毛・養毛剤

	重量%
1. エタノール	60.0
2. 製造例2のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
3. 製造例5のココヤシ圧搾液乳酸菌発酵代謝物	2.0
4. <i>Cocos plumosa</i> 抽出物乳酸菌発酵代謝物	2.0
5. センブリ（当薬）全草60%エタノール抽出液	1.0
6. カンタリスチンキ	0.5
7. パントテン酸誘導体	0.5
8. グリチルリチン酸	0.5
9. レゾルシン	0.5
10. サリチル酸	0.5
11. ヒドロキシエチルキトサン溶液	0.5
12. エラスチン加水分解液	0.5
13. 抗菌・防腐剤（パラベン）	0.1
14. 香料（ラベンダー水）	適量
15. 精製水	100とする残余

【0128】

(処方例27) 顆粒浴用剤

	重量%
1. 炭酸水素ナトリウム	58.0
2. 無水硫酸ナトリウム	30.0
3. ホウ砂	2.0
4. A: 製造例1のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
B: 製造例2のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
C: 製造例3のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
D: 製造例4のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
E: 製造例5のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
F: 製造例6のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物	
※ A～F 何れか1種の発酵代謝物の乾燥粉末	5.0
5. 色素（グンジョウ緑）	適量

【0129】

(処方例28) 顆粒浴用剤

	重量%
1. 炭酸水素ナトリウム	58.0

2. 無水硫酸ナトリウム	30.0
3. ホウ砂	4.0
4. ブラジルゾウゲヤシ胚乳液乳酸菌発酵代謝物乾燥粉末	3.0
5. ブラジルヤシ胚乳液乳酸菌発酵代謝物乾燥粉末	3.0
6. オオミヤシ胚乳液乳酸菌発酵代謝物乾燥粉末	3.0
7. ジョウオウヤシ胚乳液乳酸菌発酵代謝物乾燥粉末	2.0
8. 細果冬青70%エタノール抽出乾燥粉末	1.0
9. 菖蒲葉又は根70%エタノール抽出乾燥粉末	1.0
10. 林檎果汁粉末	1.0
11. 色素（ゲンジョウ、水酸化クロム）	適量
12. 香料（ブドウ水）	適量

【0130】（処方例29）被覆保護剤

ガーゼ又はリニメント布に製造例2のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物、製造例3のココヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物、製造例4のココヤシ圧搾液乳酸菌発酵代謝物、抗生物質・抗炎症などを適量混合した処方液を含浸させ、外傷部に添付する被服保護剤とする。又、ココヤシ熱水抽出物乳酸菌発酵代謝物、製造例2のブラジルヤシ抽出物乳酸菌発酵代謝物を直接、局所に散布し、ガーゼなどで被覆しても良い。

【0131】（試験7）使用効果試験

本発明の化粧品組成物を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストはシミ、ソバカス、色黒で悩む人（34～41歳、10名）と乾燥肌やツヤ・張りのない肌で悩む人（26～47歳、10名）をパネラーとし、毎日、朝と夜の2回、洗顔後に処方例1の乳液の適量（表3）

量を顔面に3ヶ月に渡って塗布することにより行った。尚、対照には、本発明品を除いて同様に処方したものを用了。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表3の通りで表中の数値は人数を表す。尚、使用期間中に皮膚の異常を訴えた者はなかった。

【0132】「シミ・ソバカス&皮膚色改善効果」

有 効：シミ・ソバカスや肌の色が白く改善された。
やや有効：シミ・ソバカスや肌の色が白く改善された。
無 効：使用前と変化なし。

【0133】「皮膚感触改善効果」

有 効：肌のツヤ・張りが増した。
やや有効：肌のツヤ・張りがやや増した。
無 効：使用前と変化なし。

【0134】

試 料	シミ、ソバカス、皮膚色改善効果			皮膚感触改善効果		
	有 効	やや有効	無 効	有 効	やや有効	無 効
製造例1	6	4	0	7	2	1
製造例2	5	5	0	5	5	0
製造例3	7	3	0	6	4	0
製造例4	4	6	0	5	5	0
製造例5	5	4	1	5	4	1
製造例6	4	5	1	6	4	0
対照品	0	2	8	0	1	9

【0135】（試験結果）表3の通り、本発明品を配合した乳液は、有意に乾燥肌を改善し、肌にツヤ・張りを与え、又、シミ、ソバカスの軽減に有効であり、肌の色も白く改善することを確認した。また湿疹の軽減にも有

効であったとの事例を得た。

【0136】

【発明の効果】本発明による化粧品組成物は、その必須成分であるヤシ科ココヤシ属植物抽出物の乳酸菌発酵代

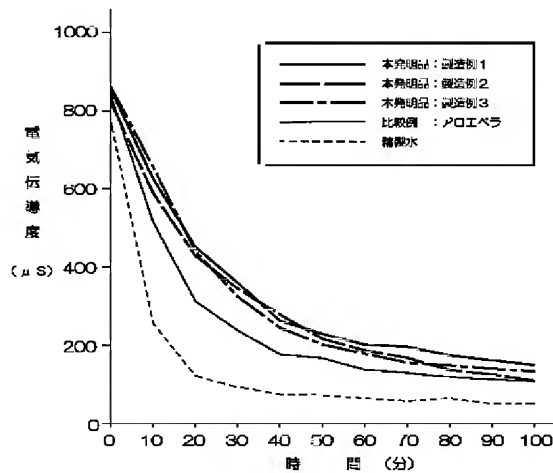
謝物によるチロシナーゼ活性抑制効果により、美白効果を有すること。そして、肌のシミ、ソバカスを改善、肌の色を白く改善すること。又、保湿効果を持ち、肌にツヤ・張りも与えることができ、人・動物に対しても安全なものである。

【図面の簡単な説明】

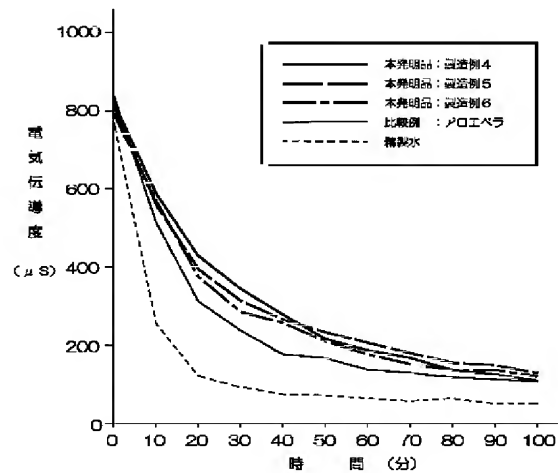
【図1】 本発明品：製造例1～3の適用部位における皮膚電気伝導度の経時変化（実施例：保湿性試験1）

【図2】 本発明品：製造例4～6の適用部位における皮膚電気伝導度の経時変化（実施例：保湿性試験1）

【図1】



【図2】



フロントページの続き

F ターム(参考) 4C083 AA031 AA072 AA082 AA111
 AA112 AA122 AB032 AB152
 AB212 AB232 AB242 AB312
 AB352 AB432 AB442 AC022
 AC032 AC072 AC102 AC122
 AC132 AC172 AC182 AC242
 AC332 AC342 AC422 AC432
 AC442 AC472 AC482 AC532
 AC542 AC552 AC582 AC642
 AC692 AC772 AC782 AC852
 AC902 AC932 AD022 AD042
 AD092 AD112 AD212 AD272
 AD322 AD412 AD442 AD452
 AD532 AD552 AD642 AD662
 CC04 CC05 CC06 CC07 CC12
 CC19 CC23 CC25 CC32 CC33
 CC37 CC38 CC39 DD27 DD32
 DD33 EE12 EE16
 4C087 AA01 AA02 AA03 BC55 BC56
 BC57 BC58 BC59 BC60 BC61
 BC62 BC75 MA63 NA14 ZA89